

■別表1
シリコン 保安事故事例

| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|--------|-----------------------|---|--|--|--|--|---|
| 発生年月日 | | 2006年6月29日 | 2007年12月17日 | 2009年4月1日 | 2010年2月18日 | 2010年2月19日 | 2010年12月23日 |
| 工程 | | 回収工程 | 蒸留工程 | 蒸留工程 | その他 | 回収工程 | 原料工程 |
| 発災工程分類 | | 熱交換器開放洗浄 | 蒸留塔 | 蒸留塔 | 廃棄物処理 | 熱交換器 | サイクロン |
| 事故発生概要 | | 開放機器内の残渣物が、作業の摩擦によって発火した。 | 塔内の圧力上昇によって塔頂安全弁が作動し、TCSとSTCが噴出して着火した。 | 配管残液TCS除害作業中に吸引ホース内に固着しているシリカ類にTCSが吸着し、静電気着火。吸引ダクト内に残留していた水素に引火してダクトが破裂した。 | 反応炉プレートシリカを廃棄処理するためボールミルで粉砕したところ、ボールミルのフランジが破裂して内容物が吹き出した。 | 機器洗浄場において、ポリマー不活性化処理後の熱交換器を解体する作業で、外したバルブに付着したポリマーが着火した。 | 塩化炉のサイクロン下部のバルブ付近から白煙が発生、ただちに塩化炉を停止。停止操作中に出火を確認し、窒素投入して消火した。 |
| 1 | 発災工程 | 実験設備 熱交換器洗浄工程 | 蒸留塔の排ガスラインのバルブ閉止 | 蒸留工程の置換作業 | ボールミルによる粉砕 | 熱交換器の解体作業 | 通常運転中 |
| | プロセス条件 | 熱交換器の内部部品を取り出し、大気中にしばらく置いた後に移動した。 | 危険物(TCS)の漏洩 | 水素ガスを窒素ガスに置換する作業を実施(結果として不十分) | ボールミルへの充填量過多、さらにガスの発生 | バルブに付着・残留していたクロロシランポリマー類の大気中の水分による加水分解 | 漏洩した水素およびTCSへの着火 |
| 2 | 物質 | クロロシランポリマー及びその加水分解生成物 | トリクロロシラン(TCS) | トリクロロシランガス、水素ガス | クロロシランポリマー加水分解生成物 | クロロシランポリマー加水分解生成物 | TCS 水素 |
| | 潜在エネルギー危険性 | 大気中の水分と反応、表面乾燥し感度増 | 可燃性液体(気体) | トリクロロシランガス、水素ガスへの着火 | クロロシランポリマー加水分解時のガスの発生 | 加水分解後の乾燥による発火・爆発性の残留 | 可燃性液体(気体) |
| 3 | 保安事故分類 | 発火(瞬時) | 発火(火災) | 破裂、破損 | 破裂 | 発火(火災) | 発火(火災) |
| 4 | 人的被害 | 火傷2名 | なし | なし | なし | 1名火傷 | なし |
| | 物的被害 | なし | なし | 排ガス吸引ダクト(塩ビ)破損 | なし | なし | なし |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | 協力会社 | なし | なし | なし | 協力会社 | なし |
| 5 | 直接要因 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物への衝撃。 | 蒸留塔内の圧力上昇による安全弁が作動し、漏洩したTCSの着火。 | TCSを吸着していたダクトへ帯電していたビニールシートから放電し、トリクロロシランガス及び水素ガスが着火。 | 圧抜きノズルのつまりによる内圧上昇。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の衝撃等による発火。 | 漏洩したTCSおよび水素への着火。 |
| | 間接要因 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全管理(設備) 安全管理(マニュアル) | 安全管理(設備) 安全教育 | 安全教育 危険性知識 | 安全管理(設備) 安全管理(マニュアル) |
| | | クロロシランポリマーが発生・付着しないプロセスであったが、実験の変動要因で付着したことを予見できなかった。 | 蒸留塔排ガスラインの閉止による塔内圧力上昇。圧力高による遮断計装が外されていた。 | 配管が長く(約70m)、窒素への置換が不十分であった。 | ボールミルへの廃棄物充填量過多。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の発火・爆発危険性に関する十分な知見が不足。 | サイクロン下部のボールバルブの内側が、シリコン粒子による摩耗で薄肉化し、ピンホールが開いた。ピンホールから吹き出したSi粒子に静電気が帯電し、放電火花が発生し、水素に着火したと推定。 |
| 安全対策 | | 開放作業前に高温蒸気で十分に処理し、ガス検知とドレン水pH測定で判断する。 | 圧力上昇時の遮断計装の警報値の見直し。 排ガスライン操作時の作業員間の確認の徹底。 | ①静電気の発生しにくい材質の機材を使用する。②ホースは使用前に洗浄を行い、固形物除去を行う。③装置内の水素を窒素に置換する手順を改善する。 | ガス抜き口を広くし、不活性ガスをパージ。アースの取り付け。安全弁の取り付け。 当該作業自体を廃止した。 | 機器の加湿窒素処理の作業標準の制定した。化学設備の解体/撤去工事に係る作業手順の制定。「安全対策チェックシート」を作成し、工事請負人へ交付。 | サイクロン下部のバルブを廃止し、超硬金属貼りの短管に変更。 2500時間毎に短管を取外して、目視点検及び肉厚測定を行う。 |

| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
|---|---|--|---|--|---|---|
| 2010年12月25日 | 2011年2月19日 | 2011年3月4日 | 2011年3月6日 | 2011年3月16日 | 2012年2月29日 | 2014年1月9日 |
| 原料工程 | 原料工程 | その他 | 原料工程 | 回収工程 | その他 | 回収工程 |
| 塩化炉(反応炉) | 塩酸放散塔熱交換器 | サンプリングタンク | 硫酸タンク | 熱交換器 | 排水槽 | 熱交換器 |
| 塩化炉の上部より発煙、出火していることを確認した。塩化炉を停止、消火栓を用いて消火した。 | 塩酸放散塔熱交換器の圧力計台座から塩酸(濃度約20%)が約280L漏洩した。 | 小型炉のTCSサンプリングの際、小型炉系の内圧のHI警報0.18MPaを計器室で確認した。破裂板上の圧力計を確認し、破裂板作動に気付いた。 | タンク下部の配管から硫酸約20Lが防液堤内に漏洩した。 | 機器洗浄場において、ポリマー不活性化処置後の熱交換器を解体する作業で、チャンネルカバー内に堆積していたポリマーが着火した。 | 機器洗浄場において、熱交換器洗浄作業後のポリマー残渣含みの排水を受ける排水槽内で爆発、破損し、ピット上蓋(鉄製)が飛んだ。 | 水素精製設備の熱交換器を定期洗浄のため取外し、所定の洗浄場において前処理を実施の後、蓋を開けた際に爆発が発生。 |
| 塩化炉のスタートアップ作業 | 通常運転中 | 蒸留工程のサンプリング作業 | 通常運転中 | 熱交換器解体洗浄作業 | 排水槽中の洗浄物の堆積 | 熱交換器開放洗浄作業 |
| 通常では反応が起きない塩化炉上部での反応により、塩化炉のガスケットが損傷しガスが漏洩 | 高温(125℃)の塩酸による腐食 | バルブ切り替え | 電気腐食によるSPG配管への腐食 | 熱交換器に付着・残留していたクロロシランポリマー類の大気中の水分による加水分解 | 熱交換器に付着・残留していたクロロシランポリマー類のアルカリによる急激な加水分解 | 熱交換器に堆積していたクロロシランポリマー類が加湿窒素で加水分解後に乾燥 |
| TCS 水素 | 塩酸 | TCS | 硫酸 | クロロシランポリマー加水分解生成物 | クロロシランポリマー加水分解生成物 | クロロシランポリマー加水分解生成物 |
| 可燃性液体(気体) | 高温酸性液体による腐食 | 可燃性液体(気体) | 電気腐食 | 室温での加水分解による発火・爆発性の残留 | アルカリによる加水分解による発火・爆発 | クロロシランポリマー加水分解生成物 |
| 発火(火災) | 漏洩 | 破損 | 漏洩 | 発火(火災) | 爆発 | 爆発 |
| なし | なし | なし | なし | 3名負傷 | なし | 死亡5名、休業4名、不休業9名 |
| なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし |
| なし | なし | なし | なし | 協力会社 | なし | 従業員13名、協力会社5名 |
| 漏洩したTCS、水素への着火。 | 高温塩酸による腐食で圧力計の隔膜が消失した。 | 密閉されたサンプリングタンクへのTCSの投入。 | 雨水の侵入による電気腐食によりSPG配管に穴が開き、硫酸が漏えいした。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の衝撃等による発火。 | クロロシランポリマー類のアルカリによる加水分解における発火。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の衝撃等による発火・爆発。 |
| 安全管理(設備) 安全管理(マニュアル) | 安全管理(設備) 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全管理(設備) | 安全管理(マニュアル) 安全教育 危険性知識 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 危険性知識 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 危険性知識 |
| スタートアップ時に塩酸が中央部のシリコン層で反応せずに通過し、塩化炉上部でSiと塩酸の発熱反応が起きた。塩化炉上部でガスケットの耐熱温度を超え、ガスケットが損傷してガスが吹き出した。 | 当該部の温度は約125℃であり、PTFEコーティングがこのプロセス条件に耐えられないことが判明。圧力計の更新時に仕様が変更されていた。 | サンプリング前に開にする排ガスバルブと閉にする水素バルブの切替の失念。 | SPG製濃硫酸配管と銅製スチームトレースの接触部への雨水の浸入。 | チャンネルカバー内に堆積していたポリマーを水で処理をせずに長手袋で直接かき出した。 | ポリマー処理後の残渣の入っている槽内に廃NaOHを投入。残渣と廃NaOHとが急激に反応し、発生した水素ガスに何らかのショックで着火/爆発した。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の発火・爆発危険性に関する知見不足。リスクアセスメントが不十分。作業手順の客観性・具体性の欠如。 |
| 塩化炉塔頂部への温度計増設。塩化炉のガスケットを耐熱温度420℃のものへ変更。塩化炉スタート時の塩酸流量を規定。 | 圧力計の隔膜をタンタル製または、FEPフィルムタイプを使用する。 | 圧力HI警報を0.18から0.14MPaに変更。サンプリングタンクに圧力スイッチを取り付け、現場へのパトライト設置。圧力範囲を色分けした圧力計を見やすい位置に変更。 | 濃硫酸配管に防食テープを貼り、銅製スチームトレースと絶縁。濃硫酸配管をSUS製へ変更。 | 整備期間の見直し。乾燥したポリマーは危険性が高いため、水で十分湿らせた後に作業することを関係請負人に周知。作業者が手袋で直接ポリマーに触れることを禁止。ポリマーを除去する際は耐火性の頭巾を着用し、肌の露出を防ぐ。 | 廃NaOHを排水槽に入れない。(ポリマー残渣や酸とアルカリを一緒にしない)排水槽には蓋をせず、開放とする。(発生水素ガスが内部にたまらない構造にする) | 熱交換器の開放作業専用の整備場の設置。作業標準の総点検およびリスクアセスメントの実施。安全管理者の職務の明確化等。 |

| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|--|---|--------------------------------------|---|---|------------------------------|
| 2015年2月24日 | 2015年12月1日 | 2015年12月23日 | 2016年2月1日 | 2016年3月8日 | 2019年5月13日 |
| 原料工程 | 回収工程 | 回収工程 | 精製工程 | 回収工程 | 回収工程 |
| サイクロン | 配管 | 水素精製設備 | 配管 | 配管 | 配管 |
| 塩化炉のサイクロン下部のバルブ付近から白煙が発生、ただちに塩化炉を停止した。停止操作中にサイクロンから出火していることを確認し、窒素投入して消火した。 | 除害作業中に配管が破裂し飛散した。 | 水素精製設備の配管にピンホールが生じ水素が漏れ静電気で着火した | 床補修作業時、仮設足場で電動工具で切断した際に発生した火花で、ネジ(袋ナット)から漏洩した水素ガスに着火した。 | 除害作業(水没)中にガスが放散し、仮置きドラム缶等へ引火した。 | 活性炭塔のジャケットに亀裂が発生し、熱媒オイルが漏れた。 |
| 通常運転中 | 水素回収工程の除害作業 | 水素精製設備 | 補修作業 | 水素回収工程の除害作業 | 水素精製設備 |
| 漏洩した水素およびTCSへの着火 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物が乾燥し爆発感度の上昇した物質が生成 | — | 漏洩した水素への着火 | 装置内に堆積していた塩化物と水が反応 | 亀裂が発生し、漏洩 |
| TCS 水素 | クロロシランポリマー加水分解生成物 | 水素 | 水素 | 塩化物、水素 | 熱媒オイル |
| 可燃性液体(気体) | 室温での加水分解による発火・爆発性の残留 | 水素ガス漏洩時の錆び等による静電気 | 可燃性液体(期待) | 可燃性液体(気体) | 可燃性液体(液体) |
| 発火(火災) | 破裂 | 発火(火災) | 発火(火災) | 発火(火災) | 漏洩 |
| なし | なし | なし | なし | なし | なし |
| 該当サイクロン | 200Ax7m破損 | なし | なし | ドラム缶、パレット等 | 当該活性炭塔 |
| なし | — | — | 協力会社 | — | — |
| サイクロン下部の内側が、シリコン粒子による摩耗で薄肉化し、ピンホールが開いた。ピンホールから吹き出したSi粒子に摩擦、衝突による静電気が帯電し、放電火花が発生し、水素に | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の衝撃等による発火 | 配管に結露による外部腐食でピンホール発生 | 圧力計締結部のネジのゆるみ。 | ・可燃物を放散管近辺へ保管 ・塩化物が着火(推定) | 設備の老朽・溶接不具合 |
| 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) 危険性知識 | 安全管理(設備) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) 危険性知識 | 安全管理(設備) 危険性知識 |
| サイクロン缶体の肉厚管理の不備。 | クロロシランポリマー類の加水分解生成物の発火・爆発危険性に関する十分な知見が不足 | 当該配管は保温が施行されており、保温を外しての点検がなされていなかった。 | 作業前に、養生を行い、ガス検知を行ったが、何らかの原因で袋ナットが緩み、水素が漏洩した。 | ・管理体制の見直し(一元管理組織の設置)と可燃物の撤去 ・除害作業のリスクアセスメントの見直しと安全化のための除害作業方案を改善 | 管理体制の見直し(点検項目の追加) |
| サイクロンの点検間隔を見直す。また、点検方法をそれまでのノギスによる肉厚測定から超音波肉厚測定器に変更。点検箇所を増やすとともにグラフ化し傾向管理を実施する。 | 水没することで湿潤状態を保持できるようにする。水没時は窒素パブリックにより可燃性ガスの滞留を防止する。 | 不要配管の撤去と、同様の結露しやすい配管の点検実施 | 圧力計の元バルブの閉止。ガス検知の頻度を上げる。 | 当該配管は保温が施行されており、保温を外しての点検がなされていなかった。 | 点検項目の追加 |

■別表2
シリコン 労働災害事例

| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
|--------|-----------------------|--|---|--|---|
| 発生年月日 | | 2005年3月1日 | 2006年12月1日 | 2007年2月1日 | 2007年11月6日 |
| 工程 | | 原料工程 | その他 | その他 | 仕上工程 |
| 発災工程分類 | | 塩化工程 | 架構 | 建屋 | 仕上工程 |
| 災害発生概要 | | バルブを閉止時に、ハンドルの補強リングが外れて作業台より転落した。 | 建設工事の梁上を歩行中、ボルト入りダンボールに躓き転倒し、アングルピースで右膝を強打した。 | ケーブルダクトサポート取り付け工事の為、高所作業車を操作中に操作盤蓋と建屋が接触し右手を挟まれ負傷した。 | 製品乾燥器内の専用トレーを乾燥器内に戻す作業において、乾燥器本体のステンレス製棚と、持っていたトレーの隙間に入れていた左手中指を挟んだ。 |
| 1 | 発災工程 | 設備保守作業 | 工事 | 工事 | 乾燥機洗浄作業 |
| 2 | 労働災害分類 | 転落 | 激突 | 挟まれ巻き込まれ | 挟まれ・巻き込まれ |
| | 有害物質 | なし | 突起物に膝が接触 | 建屋と盤間に手を挟まれ | なし |
| 3 | 負傷部位・程度 | 左即頭部骨折 | 右膝蓋骨骨折 | 左前腕尺骨骨折 | 左中指末節骨骨折 |
| | 休業日数等 | 休業15日 | 6週間 | 不休 | 不休 |
| | 年齢・経験年数 | 53歳・27.5年 | 62歳・37年 | 35歳・10年 | 45歳・1カ月 |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | 自社 | 協力会社 | 協力会社 | 協力会社 |
| 4 | 直接要因 | バルブハンドルの補強リングの破損。 | 足元確認不足。 | 操作ミス。 | トレーに取っ手が無かった。 |
| | 間接要因 | 安全管理(設備) 安全教育 バルブが固くなっていた、さしこみが甘い、補強リングの溶接強度不足、作業台を使用する高さではなかった、KY不足。 | 安全管理(マニュアル) 工事の管理不足。 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 作業前のKY不足。 | 安全管理(設備) 安全教育 トレーの挿入作業における手順書が無かった。 安全意識不足。 |
| 安全対策 | | 転倒・転落の危険箇所については、KYTによる予測を実施する。固着して固くなっているバルブは交換する。ハンドルは完全に差し込むよう徹底する。作業台を使用する必要のない高さでは作業台を使用しない。 | 動線上に障害物を置かない。 | 作業前に操作の確認。 | トレー挿入方法を作業標準に追加し、作業員への教育を実施。当該乾燥器上に災害事例箇所表示にて再発防止の注意喚起を促す。挿入用専用治具(把手)を検討して製作する。 |

| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|--|---------------------------------|---|--------------------------------|--|
| 2007年11月12日 | 2008年9月1日 | 2009年1月27日 | 2009年4月10日 | 2009年7月14日 |
| 反応工程 | 仕上工程 | 反応工程 | 原料工程 | 原料工程 |
| 反応工程 | 加工工程 | 反応工程 | 転化工程 | 塩化工程 |
| 反応炉のスタート作業で真空ライン配管のバルブを開けようとハンドルを回していた際に、隣接の冷却水配管に右手小指を挟んだ。 | クリーンルームの乾燥装置内で、自動運転中の移載機に挟まれ死亡。 | 台車上で、多結晶シリコン反応炉からシリコンロッドを専用の機械で取り出し、台車下で作業している受取・積荷担当者に渡そうとした際に、ロッド上部からシリコン片が欠け落ち、上唇左側に当たり裂傷した。 | 転化炉の定期修理中、配管開放部より流出した塩化物ガスを吸引。 | 洗浄塔入口配管の解体作業中、TCSが腕に被液した。 |
| バルブ開作業 | 洗浄作業 | 受取・積荷作業 | 配管開放作業 | 配管取り外し作業 |
| 挟まれ・巻き込まれ なし | 挟まれ巻き込まれ 移載機に挟まれ | 崩壊・倒壊 多結晶シリコン | 有害物との接触 塩化物ガスを吸引 | 有害物との接触 TCSが腕に接触 |
| 右手小指皮膚裂傷 | 多傷性窒息 | 上唇左側皮膚裂傷 | 急性喉頭炎 | 左手甲から腕 |
| 不休 45歳・3.6年 | 死亡 46歳・2年 | 不休 21歳・3.8年 | 不休 56歳・25年 | 休業3日 35歳・15.5年 |
| 自社 | 派遣 | 協力会社 | 自社 | 協力会社 |
| バルブ開時、ハンドルの握り方・姿勢に無理があった。バルブに接続したハンドルがしっかり固定されてなかった。 | 自動運転中の装置内に体を入れた。 | 簡易マスクを下側にずらし装着し、負傷部が露出していた。 | 開放部の確認不足。 | 配管内TCS液がたまる構造になっていた。保温用スチームが止まり、冷えていたため、TCSが凝集していた。 |
| 安全管理(設備) 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 |
| 冷却水配管が隣接し、ハンドルが回しにくかった。 安全意識が不足していた。 | マニュアルの不備。 | シリコン片が落下する危険があるというKY意識が不足。シリコンロッドの直下近くに立って作業していた。鼻からあごを保護する耐切創用保護具が標準化されていなかった。 | 作業連絡不十分。 | ガスの配管であったため、配管内に液が無いと思い込んでいた。ガス配管を取り扱うための保護具を着装していた。 |
| 安全な作業方法を教育する。ハンドルをバルブにネジで止めて固定させる。クッションを冷却水配管の被災箇所に巻く。冷却水配管に表示をし、作業者に注意を喚起する。手動弁を自動弁に変更する。 | 点検窓の閉止、作業マニュアルの見直しと教育。 | 保護具の装着徹底、安全距離の確保に関する対策を遵守するように教育した。鼻からあごまでを保護できる保護具を導入し、標準化する。 | 作業指揮者による同時並行作業のチェック。 | 液・ガスの配管に関わらず、作業前に液の溜まる可能性があるかチェックする。解体工事の依頼部署は開放するフランジをチェックし、液漏れ等の危険性の有無を確認する。危険性のあるフランジについては、依頼部署が口割り作業を行う。 |

| 10 2010年2月22日 | 11 2010年7月28日 | 12 2010年8月16日 | 13 2010年9月18日 | 14 2011年3月19日 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---|---|------------------------------------|
| 反応工程 還元工程 | 原料工程 転化工程 | その他 除害工程 | 蒸留工程 蒸留工程 | 仕上工程 加工工程 |
| 運転前に炉下を点検中、スチームドレンのホースが抜け両腕を熱傷した。 | 転化炉の組み立て中、油圧リフターが急降下し作業員3名が負傷した。 | 廃液処理ノズル交換作業において、ラインの残圧パージのためガス抜弁を開けた際、ホースが踊り、飛散した液が右目にかかった。 | 配管フランジ部に仕切板を取り付けるため、フランジのボルトを緩めた際、配管内部よりガスがでて、作業員がこれを吸引し被災した。 | クリーンルーム内溝蓋の段差に躓き、電源盤及び壁に頭をぶつけ切創した。 |
| 点検作業 | 工事 | ノズル交換作業 | 配管仕切板取付作業 | 点検作業 |
| 高温、低温物との接触 スチームドレンが腕に接触 | 飛来、落下 リフターが急降下 | 有害物との接触 STC | 有害物との接触 HCI (TCS/STC) | 激突 電源盤との接触 |
| 両前腕部火傷 | 側副靭帯損傷、骨折 | 右目腐食症及び角膜潰瘍(軽度) | 塩化水素ガス吸引(軽度) | 頭部切創 |
| 1週間 26歳・2年 | 2週間 36歳・4年 37歳・7年 56歳・9年 | 不休 21歳・1年 | 不休 42歳・5年 | 不休 52歳・12年 |
| 自社 | 協力会社 | 従業員 | 協力会社 | 自社 |
| 力を加えたことによるホースの抜け。 | 不適切な使用による設備故障。 | 安全保護具使用基準の不遵守。 | 配管内に残圧があり、フランジを緩めた際に塩化水素を微量含むガスを吸引した。 | 足元の注意不足。 |
| 安全管理(マニュアル) | 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全管理(設備) 安全教育 |
| マニュアルの不備。 | 作業法のKY不足。 | 危険意識の欠如。 眼鏡レンズの汚れや圧力計表面汚れて指示値が見にくかった。 | 配管の脱圧が完全でない。吸引除害ホースの未使用。防毒マスクの装着不良。 | 作業環境の管理不足。 |
| スチーム送気時の立ち入り侵入防止の徹底。 | 作業床等の使用。 | 保護具点検の徹底。 圧力計管理の徹底。 ホース先端部の改造。 | 脱圧確認方法、吸引除害方法などの基準見直し。 防毒マスク装着教育。 | 段差フリーへの改善。 |

| 15 2011年3月16日 | 16 2011年6月30日 | 17 2011年7月19日 | 18 2011年7月12日 | 19 2011年8月4日 |
|---|--|-------------------------------------|---|---|
| 回収工程 | その他 | 原料工程 | 回収工程 | 反応工程 |
| 精製工程 | 液製品充填工程 | 転化工程 | シラン液回収工程 | 反応工程 |
| 罹災者Aはチャンネルカバー内のポリマーを手でかきだそうとした。ポリマーと空気中の水分が反応し、発生した水素が衝撃により着火。炎は1m程の球状となり一瞬で鎮火した。チャンネルカバーを支えていた罹災者B,Cと共に罹災。 | 段差(38センチ)を降りた時に、左足の床面への着地が悪く足をひねって転倒気味になった。 | プロセス液サンプリング時、ミストが吹き出し左手前腕部にかかり薬傷した。 | 定修作業で仮設足場の昇降用はしごを降りる際、背を向けた体勢から反転した際、足を踏み外し転落・被災した。 | 蒸気ラインのドレンを抜くため、排出口のバルブを微開とした際、高温のドレン水が右足にかかり被災した。 |
| 機器解体・洗浄作業 | 充填・残液戻し作業 | サンプリング作業 | 凝縮器カバー取付け作業 | 気化器起動準備 |
| 有害物との接触 | 転倒 | 有害物との接触 | 墜落・転落 | 高温物との接触 |
| クロロシランポリマー加水分解生成物 | なし | プロセス液と手が接触 | なし | なし |
| 左耳介、頸部薬傷(3名共) | 左足小指のヒビ | 左手前腕部薬傷 | 第三腰椎圧迫骨折他・全治2~3ヶ月見込 | 右下腿熱傷(軽度) |
| 不休 | 不休 | 不休 | 休業 | 不休 |
| C:42歳・21年 B:24歳・3年 A:23歳・6年 | 32歳・5年 | 24歳・2年 | 46歳・7年 | 32歳・約4年 |
| 協力会社 | 自社 | 自社 | 協力会社 | 従業員 |
| チャンネルカバー入口側の堆積物ポリマーを長手袋でかき出した。ポリマーを水で湿らせた状態で作業するのを怠った。 | 多少高さのある位置(エリア)から足を踏み出した。通常作業で歩行通路として使用しており、慣れている場所でKY不足で段差を通行した。 | 内容物除去が不十分。 | 梯子昇降時に逆向きで降りようとした。梯子上で回転し、バランスをくずした。 | 蒸気元弁の内漏れにより高温ドレン水が放出。作業基準不遵守。 |
| 安全管理(設備) 安全教育 | 安全管理(設備) 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 |
| 保護具着装を強化していたが、肌の露出部が残っていた。機器開放時に臭気・発煙が無く、ポリマーに対する危険性を軽く考えてしまった。下請け業者への引継ぎが明確でなかった。 | 横の段差と比較して高さが11cm程度(38cm-27cm)低くなっていた。横の段差と高さ差があり、高さの錯覚が生じた可能性あり。 | 作業法のKY不足。 | 安全意識の欠如。 精神的な焦りがあった。 | 適正工具の不使用。 ブローノズルの方向不適。 |
| ポリマー除去作業時、主要作業者はケミカルスーツを着用。ポリマーは水で湿らせた状態で作業する。ポリマー危険性と作業位置についてのKYを都度実施。作業業者への引継ぎを徹底する。 | 当該場所を歩行帯としての使用を禁止する。恒久対策としては、鉄製の手すりを設置して該場所の通行を禁止する。 | 作業法変更(残液なし)。 | 昇降方法のルール遵守の徹底。 | ブローノズルの吹き出し方向適正化。 |

| 20 2011年9月26日 | 21 2011年11月3日 | 22 2012年1月4日 | 23 2012年3月20日 | 24 2012年3月2日 |
|---|--|---|--------------------------------|---|
| 原料工程 転化工程 | 仕上工程 ロッド加工工程 | 仕上工程 洗浄工程 | その他 配管 | その他 除害工程 |
| 上部作業者が下部にいた罹災者にバールを手渡そうとした時、罹災者は背を向けており、手渡すのを止めようとしたが手が滑りバールが落下。声に気付いた罹災者が振り向いた時に、バールが罹災者のメガネフレームにあたった。 | ポリシリコンロッドを台車から作業台へ移動させる際、ロッドと作業台との間に指を挟んで被災した。 | 洗浄機の動作不良確認のため、ローラーの駆動チェーンの弛みがあり。チェーンの調整をするためテンション調整用ボルトをスパナで回している最中に、右手の甲がピリピリしてきた。 | サクシオンフィルター整備時、プロセス液が飛散し薬傷した。 | ライン液抜き作業にて窒素ホースを外した際、配管内に残存していたSTCが飛散、側にいた作業者の右目に入った。 |
| 設備保守作業 | ロッド破砕作業 | コンベアローラー補修作業 | 整備作業 | 配管詰り点検液抜作業 |
| 激突 なし | 挟まれ・捲込まれ なし | 有害物との接触 硝酸、フッ酸 | 有害物との接触 プロセス液(STC,TCS)と手が接触 | 有害物との接触 STC |
| 右眼瞼裂傷、結膜裂傷 | 右中指指尖部損傷 | 右手甲 薬傷 | 薬傷 | 右眼薬物火傷(軽度) |
| 不休 32歳・8年4カ月 | 不休 34歳・8年 | 不休 38歳・1年9カ月 | 不休 34歳・3年 | 不休 19歳・10ヶ月 |
| 協力会社 | 協力会社 | 自社 | 自社 | 従業員 |
| 2mではあるが上下作業になっていた。 | ロッドを作業台に乗せた時、手を抜くタイミングが遅れた。 | 非定常作業を行った箇所にフッ硝酸が付着していた。フッ硝酸に適した保護手袋を着装していなかった。 | 接続部の破損(間に合わせチューブの使用)。 | 窒素の残圧により、残存していたSTCが飛散。安全保護具使用基準の不遵守。 |
| 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 |
| 工具受け渡し時の合図、確認を怠った。工具の落下防止対策を行なっていなかった。 | 重量物を平坦部に置く際の安全対策不十分。一人作業での取扱重量未規定。 | KYは行ったが、フッ酸・硝酸が付着しているという認識が無かった 点検後そのまま調整作業に入ってしまう、作業の詳細に関する打合せを行わずに作業に入った。 | 作業法のKY不足。 | 保護眼鏡に汚れがあり作業毎に脱着して忘れていた。作業者間の安全確認不足。 |
| 上部作業中は下部作業者は直下に入らず待機する。上下の確認がとりづらい場合には、監視人を配置。作業前に工具受け渡し合図を決定する。工具に落下防止ロープを取付ける。直接手渡しを止め、小さな工具は工具袋、大きな工具は一度仮置き受渡しを行う。 | 一人作業時の重量制限を規定。指詰め防止治具使用。 | フッ酸・硝酸など有害物が付着している箇所は、作業実施前に洗浄等の処置を行い、PH紙等にて確認。有害物の性質に見合った保護具を着装。作業標準を作成の上、教育を実施。 | 治具の使用。 | 保護具点検の管理強化。液抜き・圧抜き方法の改善。 |

| 25 2012年6月11日 | 26 2012年6月24日 | 27 2012年8月17日 | 28 2012年11月12日 | 29 2013年4月25日 |
|---|---|--------------------------------|--|--|
| 反応工程 | 蒸留工程 | 仕上工程 | その他 | 仕上工程 |
| 反応工程 | 蒸留工程 | 加工工程 | 除害工程 | 加工工程 |
| 倒壊バッチのシリコンロッド取り出し作業中、プレート上でロッドを移動しようとする際に、バランスを崩して、よろけて腰が崩れた。この時にシリコンロッドを持ったままの手がプレートに着き、左手人差し指が挟まれた。 | ライン液抜後、開放準備作業でバルブを順次半開にした所、残留STC液のガスが出て左目周辺にかかり、被災した。 | 液抜き準備の為、抜き取り容器を落下させ跳ねた酸が目飛散した。 | 熱交換器の本体カバーを重機にて吊り降ろしていた際、吊りワイヤーがずれて、カバーとワイヤーの間に右手薬指を挟まれ被災した。 | 加工作業にてシリコンロッドの割れに気がつき、カケラを引き取ろうとした。カケラの下に左手を入れ、持ち上げる様に力を入れたところ、手がすべりカケラの鋭利な部分で左手人差し指先端を切創した。 |
| シリコンロッド取り出し作業 | ラインの開放洗浄作業 | 液抜き作業 | 熱交換器の開放作業 | シリコンロッド加工作業 |
| 挟まれ・巻き込まれ なし | 有害物との接触 HCl (STC) | 有害物との接触 酸と目の接触 | 挟まれ・巻き込まれ なし | 挟まれ・巻き込まれ 多結晶シリコン |
| 左第二指挫滅創 | 左目、右腕の薬傷(軽度) | 左目薬傷 | 右環指指尖部不全切断・全治2ヶ月 | 左手人差し指先端の切創 |
| 不休 51歳・8年2ヵ月 | 不休 28歳・10年 | 不休 39歳・3年 | 不休 38歳・4年 | 不休 44歳・11ヵ月 |
| 自社 | 協力会社 | 自社 | 協力会社 | 協力会社 |
| 倒れたシリコンロッドやシリコンのカケラ等がプレート上に散在しており、足場が悪く、シリコンロッド取り出し中にプレート上でバランスを崩した。 | プラントのバルブを作業員が操作した。(開ける必要の無いバルブを開けた) | 手元不注意。 | ワイヤーのそばに手を置いた為、ずれたワイヤーに指を挟まれた。 | シリコンのカケラに鋭利な部分があった。内手袋の強度が不足していた。 |
| 安全教育 | 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(設備) | 安全教育 |
| 被災者は当該バッチ解体作業の監視者であったが、自らシリコンロッドの取り出しを行ったため、取り出し作業の監視とシリコンロッド取り出しの両方に気を取られていた。 | 運転員立会いなしで開放作業実施。監督から作業員への指示が不十分だった。 | 危険物質に対する意識不足。 | 吊金具の位置が悪く、また「当てもの」がなかったため、ワイヤーがずれ易かった。 | 簡単に取り出せると思い込んでいた。切れに関する認識はあったものの、力を加え上げた時、持っていた指が滑って切れることについて認識が不足していた。 |
| 作業指揮者を定め、作業開始前に危険予知ミーティングを行う。プレート上に作業員が乗る前に足場を確保する。プレート上に足場ができたなら、あらかじめ決められた作業員1名がプレートに乗る。 | ルールの徹底(運転員立会、バルブ操作禁止)。開放ライン指示明確化。 | 安全作業マニュアル作成。 | 吊金具の位置の改造。 チェンブロック等の適時活用。 | 切創防止効果の高いインナー手袋にする。 反応台車からのシリコンを取り出しやすくするための治具を使用する。 |

| 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
|---|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 2013年7月22日 | 2013年8月17日 | 2014年1月22日 | 2014年7月17日 | 2014年11月14日 |
| 原料工程 塩化工程 | 仕上工程 加工工程 | 反応工程 還元工程 | 仕上工程 加工工程 | その他 高速切断機 |
| TCS配管撤去作業中、フランジのボルトを緩めたところ、TCSが噴出し、下半身、右手にかかり、それぞれ作業着、手袋にTCSがしみ込んで罹災した。 | エッチング装置の熱交整備中、フッ酸・硝酸が左腕に接触し薬傷した。 | 整形用機械で部品を修正作業中、左手中指を挟まれた。 | シリコン材破碎時、左手中指付け根に欠片(破片)が刺さった。 | SUS配管の切断中、配管が左手に当たり被災した。 |
| 配管補修作業 | 整備作業 | 部品修正作業 | 破碎作業 | 配管切断作業 |
| 有害物との接触 TCS | 有害物との接触 フッ酸・硝酸と腕が接触 | 挟まれ巻き込まれ 駆動部と指が接触 | 切れ、こすれ 欠片と指が接触 | 激突され 配管と手が接触 |
| 股間部分、右手(第2～4指の指先第2関節まで) | 左腕薬傷 | 左手中指裂傷骨折 | 切創による異物残留 | 左示指中節骨開放骨折 |
| 不休 36歳・16年 21歳・4年 | 不休 41歳・3年 | 不休 38歳・3年 | 不休 21歳・0.3年 | 不休 51歳・33年 |
| 協力会社 | 自社 | 自社 | 協力会社 | 自社 |
| 工事範囲について部所管の認識が異なり、一部、口割りがなされていなかった。撤去工事範囲の現場のマーキングが一部出来ていなかった。 | 保護具の不備。 | 手元不注意。 | 保護具が不備。 | 操作法の不適。 |
| 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(設備) 安全管理(マニュアル) 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(マニュアル) |
| 工事範囲について関係部署担当者が現場で確認していなかった。現場担当者が撤去工事範囲が追加になった事を知らなかった。また、当日は現場担当者が不在だった。 | 作業時の確認不足。 | マニュアルの不備。 | 安全意識の欠落(ヒアリの見逃し)。 | 使用基準が不明確。 |
| 作業前までに撤去範囲、口割り箇所を、関係担当で現場を確認する。また、当日作業前に口割りがなされているかを確認する。 | 保護具の見直し。 | スイッチの改造(両手スイッチ操作へ)。 | 鋭利片用手袋の使用。 | 専用切断機の使用。 |

| 35 2014年11月25日 | 36 2015年3月1日 | 37 2015年4月1日 | 38 2015年4月1日 | 39 2015年12月1日 |
|--|---|--|---|--|
| 反応工程 還元工程 | 反応工程 反応工程 | 反応工程 反応工程 | その他 洗浄工程 | その他 除害工程 |
| 油圧式トルクレンチで締め付け時、固定用の枕木がはずれた為、配管との間に小指が挟まれ被災した。 | 反応炉解体作業及び洗浄作業終了後、ホースに後ろ足が引っかかり、左目上部を床に強打した。 | 真空ポンプのオイル交換作業中、フィルターの掃除が終了した為、フィルターを取付けようと真空ポンプ防液堤を越えようとした際、防液堤で躓き、真空ポンプの側面に顔面を強打した。 | 自動洗浄機1第3槽熱交換チューブ交換作業で、槽内の水洗い、水抜きをしていた所、左肘がヒリヒリしてきた。 | 反応器から出る金属シリコン微粉を除害する際に一瞬の発火による熱風で火傷した。 |
| ボルト締め付け作業 | 反応工程の炉洗浄作業 | 真空ポンプオイル交換作業 | 自動洗浄機整備作業 | 微粉除害工程の確認作業 |
| 挟まれ巻き込まれ レンチと配管間に挟まれ | 転倒 | 転倒 | 有害物との接触 硝酸に皮膚が接触 | 高温・低温物との接触 |
| 左手第5指中節骨骨折 | 左目上部 | 上唇上部切創 | 腹部・左肘薬傷 | 両手首、首の火傷 |
| 不休 41歳・5年 | 不休 64歳・21年 | 不休 22歳・2年5カ月 | 不休 44歳・20年 | 不休 32歳・3年8ヶ月 |
| 自社 | 派遣(再雇用) | 派遣 | 協力会社 | 従業員 |
| 道具の不適。 | ホースのねじれ。 | 防液堤が認識し難かった可能性あり(目立たない) | 事前の水洗い作業が不十分。 | 金属微粉捕集フィルターのバルブの内漏れで水素が漏れ込み発火 |
| 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(設備) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) |
| 作業前の事前KY不足。 | 作業者間の注意不足 | 本人のイメージより、踏み出し足と防液堤が近かった。 | リスクアセスメントが不十分であり、作業標準の記載なし。 | バルブ内漏れの交換基準がなかった |
| 道具の導入(動線範囲に手の入らないものは)。 | ねじれ防止としてフレキシブルジョイントの採用。作業開始時の声かけ | 注意喚起のため防液堤を塗装。照明の増設 | 水洗い作業後、pHで中性を確認した上で、拭き取りを徹底する。 | バルブの内漏れ量を定期的に測定し、基準を超えれば交換する。 |

| 40 | 41 | 42 | 43 | 44 |
|---|---------------------------|--|---|---------------------------|
| 2016年6月6日 | 2016年8月22日 | 2016年10月19日 | 2016年11月6日 | 2016年11月8日 |
| その他 | その他 | その他 | 仕上げ工程 | 仕上げ工程 |
| 蒸留工程 | | 構内道路 | 製品工程 | 製品工程 |
| ポンプがキャビテーションを起こしかけたため、急いで吐出バルブをモンキーレンチで閉めようとしたが1人では閉まらなかったため、応援者と2人でレンチで締められた際、1人が左手の指間をボルトとレンチに挟み挫創。 | コンテナ保管場所を歩行中左目に異物が入った。 | 定修起動後のサンプリング作業中、後ろ向きで後ずさりした際、側溝から漏れ出したスチームドレンでできた水たまり(約70℃)に右足を入れ熱傷した。 | 電動ハンドリフトでホリシリコン入りダンボールを運搬中(後退)に本体下部で左足を挟む | ロッドをハンマーで叩く際、誤って自分の指を叩いた。 |
| ポンプバルブの開閉作業 | 点検作業 | 工程サンプリング作業 | 製品工程の運搬作業 | 製品工程の切断作業 |
| 挟まれ | 飛来・落下 異物との接触 | 高温・低温物との接触 | 挟まれ リフトとの接触 | 激突され |
| 左手挫創 | 異物混入(目) | 左足足首回り熱傷(Ⅱ度) | 左母趾末節骨脱臼骨折 | 左手親指先端骨折 |
| 不休 | 不休 | 不休 | 10日 | 不休 |
| 28歳・10年 | 37歳・10年1ヶ月 | 29歳・8年6ヶ月 | 41歳・8ヵ月 | 26歳・1年7ヶ月 |
| 従業員 | 従業員 | 従業員 | 協力会社 | 従業員 |
| モンキーレンチの作動中心付近に手をおいたまま使用した。 | ホコリの可能性 | 側溝とスパイルウォールの上に窪みが生じ、スチームドレンの水溜まりができる不安全な状態が放置されていた。 | リフトとつま先部が接触した | 作業方法の欠陥 |
| 安全管理(マニュアル) | 安全教育 | 安全教育 | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) |
| 大きいバルブに対して小さめのモンキーレンチを使用した。 | 保護メガネを装着していても、リスクがあることを確認 | プラント上部に気を取られ足元周辺の確認を怠った。 | 作業マニュアルもなくまたリスク抽出も行わず作業をした | ハンマーを都度借り、急いでいた。 |
| 大きなバルブがあるポンプには、適正サイズのバルブハンドルをすぐ傍に設置。 | 保護具の見直し。 3Sの励行 | 窪みを部分を土嚢、砂利で埋め戻し作業時の周辺確認の徹底 | ハンドリフトのすきま部にラバー装着と作業マニュアルの作成と教育 | 作業標準にロッドの叩き方記載。ハンマーの常備。 |

| 45 | 46 | 47 | 48 | 49 |
|--|--|---|---|---|
| 2017年3月21日 | 2017年5月1日 | 2017年8月4日 | 2018年3月5日 | 2018年6月7日 |
| 仕上げ工程 | 仕上げ工程 | 反応工程 | 反応工程 | 反応工程 |
| 製品工程 | 製品工程 | 反応工程 | その他 | 撤去作業(その他) |
| ポリシリコンロッドの異物分離作業中に、ロッドから分離させたポリシリコン破片を左掌に載せて、タンクステンハンマーで割った際、左掌を切創した | 廃棄ビニールをコンテナに投入する際、持ち上げる時に、左足に痛みを感じた。診察の結果、左足筋肉の損傷と診断された。 | 小型評価炉のガス配管内のポリマー抜き取り作業中、サンタリー配管より飛散したクロロシランポリマーが手に付着、発火し熱傷した。 | 排水処理で、廃棄金属シリコン粉を処理する際に、足が滑り段差(約20cm)から落下。右わき腹を打撲。 | 反応炉下の配管を撤去作業で、ナットが固着しており、ラチェットにヤトイ管を取り付けてボルトを緩めていた。使用していたラチェットがナットから外れ、ラチェットのヘッド部が右目瞼を切創した。 |
| 切断作業 | その他 | 定期修理作業 | 排水処理作業 | 定期修理作業 |
| 切れ、こすれ | 動作の反動・無理な動作 | 有害物との接触 | 墜落・転落 | 動作の反動・無理な動作 |
| シリコン破片 | | クロロシランポリマー | | |
| 左示指浅指屈筋腱断裂、左示指深指屈筋腱断裂、左手屈筋腱断裂 | 左足筋肉損傷 | 両手 熱傷Ⅱ度 | 右胸部打撲・肋骨骨折 | 顔切創 |
| 67日 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 54歳・6.2年 | 44歳・2年1か月 | 41歳・8.8年 | 53歳・1年10か月 | 42歳・13年 |
| 協力会社 | 派遣 | 従業員 | 派遣 | 協力会社 |
| 鋭利なシリコン破片が左掌に接触した | 作業姿勢が悪かった | クロロシランポリマーが手に付着し発火した | 作業場所の欠陥 | 作業方法の欠陥 機械・装置等の指定外の使用 |
| 安全管理(マニュアル) | 作業エリアが小さかった。 | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) |
| 切断作業マニュアルに無い作業は、必ずKY実施、個人面談によるレベルアップ | 新しいステップがあったが、リスクアセスメントを実施していなかった。リスクアセスメントの実施 | 保護手袋着用範囲を明確にした、当該作業専用のマニュアルを作成する | 他の設備の不具合に気を取られていた。重くて作業性が悪かった。 | 適正工具使用の教育と指示がなかった。 |
| | 転倒防止付き作業台を設置する。作業姿勢に関して教育を実施する。 | | 設備を更新し取り回しの良いものに改良する。手すり付き踏み台設置。作業標準の改訂。 | 作業計画の見直し。ユニバーサルジョイントの使用。 作業手順書に追記し、教育の実施。 |

| 50 | 51 | 52 | 53 |
|--|--|---|---|
| 2019年2月6日 | 2019年7月20日 | 2019年8月6日 | 2019年8月11日 |
| 仕上げ工程 | 反応工程 | 反応工程 | 仕上げ工程 |
| 製品工程 | 撤去作業(その他) | その他 | その他 |
| 台車を移動させようと取手を掴んで台車を引っ張った際に、小カゴが手前に積まれていたため、台車が傾き、最上段の小カゴ1個が腕の上に落ちてきた。小カゴは腕の上にとどまったが、取手部が右太ももに当たり、痛みを感じた。 | 搬出作業のため、機器上部の配管取外し作業を開始した。フランジボルト全4本の内2本目を緩めた途端にそのフランジ隙間から内容物(トリクロロシラン液体 推定約500ml)が流出し、被災者の両手(皮手袋着用)及び両膝下の作業着にかかった。被災者は患部を水洗後、指定病院にて診察を受けた。(罹災部位は左手中指のみ) | 運転準備のため罹災者を含む3名で設備内のバルブ操作を行っていた。バルブを全開にするためにモンキーレンチでステムを回そうとしたが固くて回らなかったため、レンチを共同作業者に支えてもらい、左足裏でレンチの柄を押し回そうと力を入れた際、左下腿に衝撃を伴う激痛が走った。 | バルブを交換する際、バルブを配管から取り外し、エアーチューブの袋ナットを外し、エアーチューブを抜いたところ、バルブが開から閉に作動した為、シャフトに付いていたブロックと本体ボディーの間に右手薬指を挟まれ、裂傷した。 |
| 製品工程の運搬作業 | 定期修理作業 | 運転開始作業 | 定期修理作業 |
| 激突され | 有害物との接触 | 動作の反動・無理な動作 | 挟まれ・巻き込まれ |
| | クロロシラン | | |
| 足は打撲、背中と腰は、捻挫 | 左手中指 火傷(葉傷) | 左下腿の横紋筋部分断裂(肉離れ) | 右環指挫減創 |
| 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 26歳・7年10か月 | 23歳・1年7か月 | 39歳・20年4か月 | 46歳・28年2か月 |
| 派遣 | 協力会社 | 従業員 | 協力会社 |
| 物の置き方、作業場所・作業方法の欠陥 | 作業方法の欠陥 | 作業方法の欠陥 機械・装置等の指定外の使用 | 作業方法の欠陥 |
| 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル) |
| 作業マニュアルが、不十分であった。 | 引き渡しの際に、内容物が無いものと勘違いしていた。 | 適正工具使用の教育と指示がなかった。 | 作業マニュアルが、不十分であった。 |
| 作業手順に追記し、教育の実施。 | 作業手順に追記し、教育の実施。 | 作業手順に追記し、教育の実施。 | 作業手順に追記し、教育の実施。 |

■別表3
希土類 保安事故事例

| No. | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 想定リスク-4 | 想定リスク-5 | 想定リスク-6 | 想定リスク-7 |
|--------|---------------------------------------|--|--|---|--|--|--------------------------------------|-------------------------------|
| 発生年月 | | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク |
| 発災工程分類 | | 電気分解炉 | 原料投入口 | 鑄造装置 | 集塵設備 | 原料投入口 | 鑄造装置 | 薬品送液ライン |
| 事故発生概要 | | 熔解された浴に冷却水が入り、爆発のおそれ | 投入口に堆積した、原料の微粉に、投入時のエネルギーにより発火 | 冷却水を通水せずに鑄造し、系内の水が急激に水蒸気になり水冷銅ロールが破裂 | ダクト配管内での発火 | 投入口に堆積した、原料の微粉に、投入時のエネルギーにより発火 | 冷却水を通水せずに鑄造し、系内の水が急激に水蒸気になり水冷銅ロールが破裂 | 送液ラインの破損により薬品が漏出 |
| 1 | 発災工程 プロセス条件 | 電気分解工程 炉体の破損を防ぐために冷却水を流す | 原料投入工程 | 鑄造工程 | 集塵 | 原料投入工程 | 鑄造工程 | 薬品送液工程 |
| 2 | 物質 潜在エネルギー危険性 | 希土類酸化物および金属の溶けた浴 1000°Cくらいの浴と冷却水の接触による爆発 | 希土類合金 | 希土類合金 | 希土類合金 | 希土類合金 | 希土類合金 | 酸、アルカリ薬品 |
| 3 | 保安事故分類 | 爆発 | 火災 | 破裂 | 火災 | 火災 | 破裂 | 漏えい |
| 4 | 人的被害 物的被害 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | — — — | — — — | — — — | — — — | — — — | — — — | — — — |
| 5 | 直接要因 間接要因 | 水蒸気爆発(冷却管の破損など) 安全教育(希土類金属の発火・爆発危険性に関する十分な知見不足) | 安全管理(マニュアル)(安全設備の定期検査、粉塵の定期清掃)合金粉塵の付着、アースボンディング不良 安全教育(粉塵発火の知識不足) | 安全教育(ヒューマンエラー) 安全教育(設備の理解不足) 安全管理(設備)(フェイルセーフ化) | 粉じん火災 安全教育(希土類合金の発火・爆発危険性に関する十分な知見不足) | 合金粉塵の付着、アースボンディング不良 安全教育(粉塵発火の知識不足) | ヒューマンエラー 安全教育(設備の理解不足) | 設備の施工不良 安全管理(設備)(施工時の確認不足) |
| 安全対策 | | 安全管理(マニュアル)(冷却管の漏れチェック)、安全教育(希土類金属の発火・爆発危険性) | 安全管理(マニュアル)(アースボンディングの定期検査、粉塵の定期清掃) 安全教育(粉塵爆発、火災の原理、爆発実験ビデオ、緊急処置) | 安全管理(設備)(冷却水通水のインターロック化と定期検査) 安全教育(水蒸気爆発の原理、安全装置のしくみ) | 安全管理(マニュアル)(ダクト配管内に付着および堆積した粉じんは定期的に除去) 安全教育(希土類合金の発火・爆発危険性) | 安全管理(マニュアル)(アースボンディングの定期検査、粉塵の定期清掃) | 安全管理(設備)(冷却水通水のインターロック化と定期検査) | 安全管理(設備)(施工時のチェックの徹底) |

| 想定リスク-8 想定リスク | 想定リスク-9 想定リスク | 想定リスク-10 想定リスク | 想定リスク-11 想定リスク | 想定リスク-12 想定リスク | 想定リスク-13 想定リスク | 1 2005年4月8日 | 2 2005年6月27日 |
|--------------------------------|---|---|---|--|---|---|-----------------------------------|
| 反応槽 希土類酸化物の酸溶解時に過昇温により吹き上がる | 反応槽 急激な水和反応により反応槽内が高圧力化し、槽天板のボルトは破損し爆発。プシューンドカーンの音がした。 | 原料保管庫(テント倉庫) 台風でテント倉庫の屋根一部が破損、そこからフレコンバック入りの原料に雨水が浸透し、水和反応が発生。 | グラスライニング反応槽 槽内部のガラス面にクラック・ピンホールが発生、そこから内容物の強酸液が浸透し鉄製部は溶け出し穴が開いた。その穴から床面には強酸液が漏洩した。 | シャトルキルン 異常焼成し、焼成物、焼成容器、レンガ等が溶融 | 遠心分離機 高速回転中に内部バスケットが破断 これにより外側ボディは変形し、天板は5m下の床面に落下、破損した各部品は四方八方に吹き飛んだ | 配合 粗粉入り微粉末を分級中、微粉に着火し顔面に火傷を負った。 | サンプル作業 粉碎処理後、サンプル作業機に保管すると自然発火 |
| 溶解工程 | 水酸化反応 | 原料保管 | 結晶化 | 焼成 | 脱水 | 配合 合金と大気中の酸素との酸化反応抑制の為、不活性ガスを使用。 | サンプル作業 分析用サンプル作成のため保管 |
| 希土類酸化物 | 酸化ランタン、酸化ネオジウム | 酸化ランタン | 硝酸第2セリウムアンモン | 希土類炭酸塩などの焼成 | | 合金 | 希土類合金 |
| | | | | | | 合金同士の接触で火花が発生。 | 微粉末の希土類合金の危険性 |
| 漏えい | 爆発 | その他 | 漏えい | 破損 | 破裂 | 火災 1名負傷 あり | 火災 なし あり |
| | | | | | | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 粉末投入の過剰投入 | 希土酸化物の活性度、攪拌機の故障、ヒューマンファクター | 雨水と酸化ランタンによる水和反応 | GL槽ガラス面の摩耗、劣化。 | 温度センサーの位置がずれて低温を感知、制御回路はフルパワーでの燃焼を指示 | バスケットの溶接不良、強度不足 経年使用によるクラック発生 天板内部品の脱落 | 手ぶるい作業時の振動で合金同士が接触し火花が発生。 | 微粉末の希土類合金の危険性 |
| 安全教育(過剰な反応に対する知見不足) | 安全管理(設備)(希土類、Nd・La酸化物の水和反応に関する十分な知見不足。反応槽排気系の容量不足) | 安全管理(設備)(原料フレコンバックの密閉性不足、テント倉庫シートの経年劣化) | 安全管理(設備)(急冷等によるガラスのヒートショック) | 安全管理(設備)(センサーが外に抜け掛かっていた。担当者は機器の自動運転を信じ、途中の確認を怠った) | 安全管理(設備)(酸性液脱水における機器の腐食ピンホール・クラックの発生、点検時クラック・ピンホールの確認不足) | 安全教育(処理数量の過多及び、不活性ガス置換不足) | 安全教育(不活性ガスパージ、真空バックなどを怠った) |
| 安全教育(投入速度の制御) | 安全管理(設備)(圧力逃がし口の設置(投入口フタのボルト閉め禁止)、排気配管の拡大) | 安全管理(設備)(防水カバーをして保管する) | 安全管理(設備)(漏洩時のピット設置) | 安全管理(設備)(別途温度センサーを設置。異常温度で燃料(LPG)を遮断する) | 安全管理(設備)(信頼できる業者による点検の実施。不良個所の修理) | 安全教育(保護面の着用) 安全管理(マニュアル)(不活性ガス雰囲気中での作業を徹底) | 安全教育(不活性ガスパージ、真空バックなどを徹底) |

| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|--|--|--|
| 2006年2月9日 | 2006年6月9日 | 2009年1月27日 | 2009年12月4日 | 2011年11月16日 |
| 堆積合金除去 粉砕B系列の定修作業で堆積合金除去作業中、微粉に着火し手首を火傷を負った。 | 清掃 Mgヒュームが付着した軍手を着用したまま、ライターで着火すると発火 | 溶解 過酸化水素を過剰に入れると爆発した。 | 掃除 炉内で粉じんの掃除中、掃除機に1次爆発が発生し、その爆風で炉内に残っている粉末に引火し二次爆発が起きた。 | 消火中 テープに附着していた合金が発火しごみ箱内の紙に引火した。発火物をサンプル室外へ運び出すとき、両手首に火傷を負った。 |
| 堆積合金除去 粉砕設備解放状態での作業。 | 清掃 Mgヒュームなどを発火させて危険性を下げている | 溶解 溶けた鉄を還元 | 掃除 品種変えのための炉内清掃 | 消火中 通常のごみとして廃棄。 |
| 合金 | Mg | 過酸化水素 希土-鉄合金 | Mg合金 | 合金 |
| 合金と設備との接触で火花が発生。 | Mgヒュームや粉じんの危険性 | 水素ガス発生 | Mgヒュームや粉じんの危険性 | 合金と大気中の酸素による発熱。 |
| 火災 1名負傷 あり | 火災 1名負傷 あり | 爆発 1名負傷 あり | 爆発 4名負傷 あり | 火災 1名負傷 あり |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 協力会社 | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| こぼれた合金が設備と接触し火花が発生。 | Mgヒュームや粉じんの危険性 | 水素ガス爆発限界濃度オーバー | 粉じん爆発 | 極微量の合金が付着したシールテープを通常のごみ箱に廃棄し発火。 |
| 安全教育(保護具の未着用) | 安全教育(軍手にMgが付いており不適切であった) | 安全管理(設備)(還元剤投入量の人的ミス) | 安全教育(使用物質の危険性の知識がなかった) | 安全教育(合金の発火危険性に関する十分な知見不足) |
| 安全教育(保護具着用の再教育) 安全管理(マニュアル)定期清掃の実施 | 安全管理(マニュアル)(保護手袋の見直し) 安全教育(Mgヒュームや粉じんの危険性) | 安全管理(設備)(還元剤投入の自動化) 安全教育(応急対策として還元剤添加のタイミングおよび方法の再教育) | 安全管理(マニュアル:炉内清掃の頻度を増加) 安全教育(使用物質の危険性) | 安全管理(設備)(金属製ごみ箱の準備及び、ごみ分別の徹底) |

■別表4
希土類 労働災害事例

| No. | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|--------|-----------------------|-------------------|-------------------------------|--------------------|--|--|---|---|
| 発生年月 | | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 2000年1月13日 | 2002年7月27日 | 2003年3月14日 | 2005年4月6日 |
| 発災工程分類 | | 反応槽 | 反応槽 | 粉碎装置 | 原料秤量工程 | 坩堝セット工程 | 冷却板入替工程 | 反応工程(少量試作工 |
| 災害発生概要 | | 希土類酸化物溶解時に突沸 | 槽内清掃時に酸欠事故 | 回転駆動部に指が巻き込まれ裂傷を負う | 投入シュートに原料の入ったペール缶を乗せようとした際に、バランスを崩して、取っ手を持っていた手が、投入シュート内の鋭利な断面のあるマル片と取っ手の間に挟まり、受傷した。 | 坩堝作業をリフターを用いて実施中、坩堝が落ちそうになったので、右手で坩堝を押さえ左手で、リフターの爪を押したところ、坩堝が外れ落下 | 20tクレーンで、重量物(約12t)を移動運搬時荷の振れを止めようとした際、位置決めガイドと荷の間に左手を挟んだ。 | 希土類酸化物の酸溶解時、反応中の液が吹き上がり、熱い酸性液を浴びた。 |
| 1 | 発災工程 | 酸溶解 | 反応槽内清掃 | 粉碎工程 | 原料秤量工程 | 坩堝セット工程 | 冷却板入替工程 | 原料投入作業 |
| 2 | 労働災害分類 | 有害物との接触 | その他 | はさまれ巻き込まれ | はさまれ巻き込まれ | 飛来落下 | 激突され | 有害物との接触 |
| | 有害物質 | 希土類酸化物溶解時に突沸 | 希土類炭酸塩など | Zr-希土類酸化物 | 秤量機 | 坩堝 | クレーン操作 | 熱い希土類酸性溶液との接触 |
| 3 | 負傷部位・程度 | | | | 挫滅創、骨折 | 骨折 | 挫滅創 | 左半身の薬傷 |
| | 休業日数等 | | | | 不休 | 4日以上 | 4日以上 | 不休 |
| | 年齢 | | | | 57歳 | 63歳 | 28歳 | 49歳 |
| | 経験年数(年) | | | | 3年 | 2年 | 7年 | 25年 |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | | | | 自社(従業員) | 自社(パート) | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 4 | 直接要因 | 溶解条件 | 酸素濃度低下 | 不注意 | 安全管理(マニュアル)安全教育(投入シュート内の鋭利な断面のマル片の上に、ペール缶を置こうとした際、バランスを崩した) | 安全管理(設備)(リフターの爪に遊びが有り、坩堝が爪から外れ易い状態であった。坩堝の取っ手幅が狭かった:設備の不具合) | 安全教育(無意識に、冷却板とガイド間に手を入れた) | 希土類酸化物の投入が早過ぎ、急激に反応が進んだ。 |
| | 間接要因 | 安全教育(酸溶解に関する知識不足) | 安全教育(酸素欠乏に関する知識不足) | 安全管理(設備)(安全装置の不整備) | 安全管理(設備)(マニュアル)(手作業で、投入シュートにペール缶に入った原料を投入する作業であった) | 安全管理(マニュアル)(作業指針にリフターからの脱落注意の記載のみで、具体的ポイントが記載されていない:マニュアルの不備) | 安全管理(設備)(冷却板ガイドの位置が不適切だった危険表示がなかった) | 安全教育(今回の反応量は初めてであった。希土類の反応に対する本人の理解不足。) |
| 安全対策 | | 安全教育(プロセス手順書の徹底) | 安全教育(作業主任者による指示、酸素濃度測定、換気の徹底) | 安全管理(設備)(安全装置の設置) | 安全管理(マニュアル)(ペール缶の原料を、コンテナバックに詰替え、ホッパーに投入後、必要量を投入シュートに投入する方法を採用:作業方法の変更)安全教育(KYTの実施) | 安全管理(設備)(坩堝の取っ手の幅を広げた。リフター爪に固定ガイド設置)安全管理(マニュアル)(具体的作業指針を作成し教育実施)安全教育(KYTの実施) | 安全管理(設備)(ガイド位置変更(手が入らない位置へ、危険場所表示)安全教育(作業、安全意識教育、クレーン実習) | 安全教育(希土類酸化物の溶解反応における注意事項をまとめ、教育を実施した。) |

| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|------------------------------|--------------------------------|--|---|---------------------------------|---|
| 2005年4月20日 | 2005年6月22日 | 2005年6月29日 | 2005年7月18日 | 2005年11月17日 | 2005年12月20日 | 2005年12月21日 | 2006年3月4日 |
| 排水処理 アルカリの排水ピット内で汚泥のかき落としなどの清掃中、アルカリ性液体が保護具の間から浸透した。 | 原料配合 原料投入ガイドとトラバースーに挟まれて打撲。 | 運搬 パレットを手作業で運搬中に落下させ、足首打撲 | 点検作業 部品取付作業中に挟まれ指を骨折 | 反応工程(少量試作工 希土類酸化物の酸溶解時、反応中の液が吹き上がり、熱い酸性液を浴びた。 | 焼成工程 通路を移動中、ターンテーブルに左足を掛けた時に足が滑りターンテーブルの角に足を打ちつけた。 | 洗浄 ビーカー洗浄中に破損し、人差し指を裂傷 | 原料液の移送 希土類液の容器移し替えの際に、飛び散った液が左眼に入った。 |
| 清掃作業 有害物との接触 | 原料配合 はさまれ巻き込まれ | 運搬 飛来落下 | 点検作業 はさまれ巻き込まれ | 原料投入作業 有害物との接触 | 移動 転倒 | 洗浄 切れこすれ | 送液作業 有害物との接触 |
| アルカリ性液体との接触 | トラバースー | パレット | 粉碎機 | 熱い希土類酸性溶液との接触 | 設備に足を打ちつけた | ビーカー | 希土類液に接触 |
| 右足すねの薬傷 | 打撲 | 打撲 | 骨折 | 左足大腿部の薬傷 | 左足すねの裂傷 | 切創 | 左眼薬傷 |
| 不 休 27歳 9年 自社(従業員) | 不 休 29歳 0年 派遣 | 不 休 41歳 0年 協力会社 | 不 休 37歳 5年 自社(従業員) | 不 休 20歳 2年 自社(従業員) | 不 休 21歳 2年 自社(従業員) | 不 休 31歳 1年 自社(従業員) | 不 休 22歳 3年 自社(従業員) |
| 保護具が適切でなかった。 | トラバースーとガイドの間隔が狭かった | パレットを足におとして打撲 | 回転体に手を入れた | 希土類酸化物の投入が早過ぎ、急激に反応が進んだ。 | ターンテーブルに置いた足を滑らせた。 | ビーカーの破損 | 保護メガネを着用していなかった。 |
| 安全管理(マニュアル) (保護具が適切でなかった。) | 安全教育(トラバースーを押す人が声をかけたのに乗っている人が手をよけなかった) | 安全教育(フォークリフトを使用しなかった) | 安全教育(マニュアル) (標準書がない) | 安全教育(希土類の反応に対する本人、職場の理解不足。) | 安全管理(設備)(通路が狭く、普通に歩いて通りにくい状況にあった。) | 安全管理(設備)(素手で作業を行った) | 安全教育(決められたルールを守っていなかった。) |
| 安全管理(マニュアル) (液が入らないように保護具での防御を見直す。) | 安全教育(一人作業を徹底) | 安全教育(出向受入社員へも安全教育を徹底) | 安全教育(マニュアル) (標準書を作成) | 安全教育(希土類酸化物の溶解反応における注意事項をまとめ、教育を実施した。) | 安全管理(設備)(設備を改善し通路を確保した。) | 安全管理(設備)(手袋の着用、ガラス製からポリビーカーに変更) | 安全教育(安全教育の実施。作業場に保護メガネの収納ボックスを設置。) |

| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|---|--|---|--|---|-----------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 2006年5月28日 | 2006年6月15日 | 2006年8月25日 | 2006年12月12日 | 2007年8月30日 | 2007年10月4日 | 2008年3月29日 | 2008年4月15日 |
| 分級作業 原料粉閉まり具合確認するためテーブルフィーダー点検窓を押したところ、窓に張っていたテフロンシートが破れ粉がこぼれ落ちたため、手で押さえた時テーブルフィーダー内部のインペラーと点検窓に指を挟まれて先端を欠損。 | 溶解 攪拌ペラに当たったアルカリ液が飛散し、目に入った。 | 反応工程 中間品(粉体)を投入するためにそのフレコンを吊り上げたところ、フレコンのひもが切れて落下。中間品が眼に入った。 | 焼成工程 ホッパーに付着した中間製品をハンマーで叩いて落とす際、指をホッパー内の部品に打ちつけた。 | 原料投入 重なった2缶の希土類合金(ペール缶)を持ち上げたところ、下側の1缶(約15kg)が足の上に落下し、打撲 | 切断 ホースをカッターで切断中に人差し指を切った | 焼成工程 工場内を掃除機で清掃中、飛散した粉体の塊が左眼に入った。 | 原料準備 切断したドラム缶のバンドの切り目で膝下あたりを切った |
| 分級作業 切れこすれ | 溶解 有害物との接触 | 中間品投入作業 有害物との接触 | 清掃 動作の反動 | 原料投入 飛来落下 | 切断 切れこすれ | 場内清掃 有害物との接触 | 原料準備 切れこすれ |
| 設備 (テーブルフィーダー) | アルカリ液 | 希土類化合物(粉体)に接触 | 設備に手を打ちつけた | ペール缶、リメルト用希土類合金 | カッター | 粉体と接触 | ドラム缶の切り口 |
| 切創 | 眼薬傷 | 眼炎症 | 右手小指の骨折 | 打撲 | 切創 | 左眼の眼炎症 | 切創 |
| 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 22歳 | 48歳 | 22歳 | 35歳 | 19歳 | 27歳 | 29歳 | 30歳 |
| 0年 | 4年 | 4年 | 11年 | 0年 | 9年 | 4年 | 0年 |
| 派遣 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| インペラーと点検窓の間に挟まれた | 蓋が開いていて飛び散る状況にあった | フレコンのひもが切れた。 | 設定量以上の投入と保護具未着用。 | ペール缶が落下し、足を打撲 | ホースを手で持ったままカッターで切った | 保護メガネを着用していなかった。 | ドラム缶の切り口 |
| 安全管理(設備)(点検窓の材質が適切でなかった) | 安全教育(保護メガネ不着用) | 安全管理(設備)(吊り上げ中に、投入口に近づいた。) | 安全教育(設備取扱いのルールを逸脱していた。) | 安全教育(缶が重なっていた) | 安全教育(決められた保護具の着用) | 安全教育(保護メガネを着用していなかった。) | 安全管理(マニュアル)(ドラムバンドをドラムごと切断しないと取れない) |
| 安全管理(設備)(点検窓の材質を全てSUS製変更した) | 安全教育(保護メガネ着用)、安全管理(設備)(薬液投入箇所変更でペラに当たらないようにした) | 安全管理(設備)(吊り上げ中は、危険場所に人が入れないようにした。) | 安全教育(保護具を含めルールの徹底。打ちつけ部品の取り外し。) | 安全教育(缶は重ねない) | 安全教育(ケブラー製手袋の着用徹底) | 安全教育(掃除機で清掃中、保護メガネを着用するように指導した。) | 安全管理(マニュアル)(鋭利な切り口は叩いて処理をする) |

| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|--|---|--|---|----------------------------------|---|--|---|
| 2008年4月21日 | 2008年6月18日 | 2008年8月25日 | 2008年8月27日 | 2008年8月29日 | 2008年10月8日 | 2008年10月9日 | 2009年7月6日 |
| 焼成工程 自動稼働装置のトラブル 対応中に、装置を一部稼 働させた際に手が機械に 挟まれた。 | 反応工程(少量試作工 少量試作の反応におい て、アルカリ薬剤を投入中 に飛び散った液が左眼に 入った。 | 反応工程 電動ハンドリフトをバック で走行中、コントロールで きずポールとリフトに足を 挟んだ。 | 焼成工程 台車を押している時に、台 車のローラー部に右手を 挟んだ。 | 部材加工 部材をグラインダーで研 磨中に膝下を切った | 清掃 清掃作業中にバルブを破 損し、タンク内のアルカリ 液がかかった | 反応工程 作業着で顔を拭ったとこ ろ、作業着に付着していた 希土類酸性液が眼に入っ た。 | 築炉 ケイ酸ソーダ溶液を移し 替える際、飛散し、目に 入った |
| 異常対応作業 はさまれ巻き込まれ | 薬品投入作業 有害物との接触 | 原料移動作業 はさまれ巻き込まれ | 台車移動作業 はさまれ巻き込まれ | 部材加工 切れこすれ | 清掃 有害物との接触 | 反応作業 有害物との接触 | 築炉 有害物との接触 |
| 駆動設備部に挟まれ | 反応液との接触 | ポールとハンドリフトに挟 まれ | 台車部品に挟まれ | グラインダー | アルカリ液 | 希土類酸性溶液との接触 | ケイ酸ソーダ溶液 |
| 右手の打撲 | 左眼の眼薬傷 | 右足小指の骨折 | 右手の打撲 | 切創 | 薬傷 | 眼薬傷 | 眼薬傷 |
| 不 休 24歳 6年 | 不 休 23歳 5年 | 不 休 25歳 6年 | 不 休 25歳 1年 | 不 休 26歳 8年 | 不 休 50歳 6年 | 不 休 26歳 1年 | 不 休 37歳 0年 |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(パート) | 自社(従業員) | 協力会社 | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 稼働部分に手を置いた。 | 保護メガネを着用していな かった。 | スピードの出し過ぎ。 | 不注意でローラー部に右 手を入れた。 | グラインダーの跳ね返り | アルカリ液がかかった | 酸性液が付いた作業着で 顔を拭いた。 | ケイ酸ソーダ溶液が飛散 し目に入った |
| 安全管理(マニュアル) (異常内容の誤認と異常 対応時の手順がなかつ た。) | 安全教育(普段どおり作 業台に上がらずに作業し た。本人の安全意識の欠 如。) | 安全教育(電動ハンドリフ トの操作教育不足。リフト 自体が加速しすぎであつ た。) | 安全管理(設備)(手を挟 みやすい構造になつてい た。) | 安全教育(片手で作業し た) | 安全管理(設備)(不要バ ルブを放置) | 安全教育(薬品に関する 安全指導不足。) | 安全教育(保護メガネをし ていなかった) |
| 安全管理(マニュアル) (手順の作成。この異常は 一人で対応することにし た。) | 安全教育(安全教育の実 施。保護具を各作業所に 設置。) | 安全教育(教育の徹底と リフトの改造。) | 安全管理(設備)(ロー ラーの位置を変更する。) | 安全教育(片手作業の禁 止) | 安全管理(設備)(バルブ をフランジ部分から撤去) | 安全教育(安全教育の実 施。) | 安全教育(保護具着用を 徹底する) |

| 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 |
|---|---------------------------------------|---|-------------------------------------|--|----------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 2009年12月24日 | 2010年4月26日 | 2010年10月4日 | 2010年10月15日 | 2010年11月2日 | 2010年12月2日 | 2011年1月18日 | 2011年3月14日 |
| 移動 工場内の4階から1階の作業場へ移動中、1階の階段の4段目から飛び降りた際、階段の張り出し部分に足が乗り、左足を捻った。 | 焼成工程 台車を後ろ向きで移動させている時に、手を台車部品に挟んだ。 | 反応工程(少量試作工 少量試作の中間品のろ過時、設備の操作ミスによりアルカリ性の液を浴びた。 | 電極交換 電極をホイストで吊り上げた際、指を挟まれた | 取り出し 金型からメタルを取り出す際、立てかけていた別の金型が倒れ、足を骨折。 | 切断 切断機と取り出したメタルに指を挟まれ骨折 | 点検 回転体のボルトの増し締めを行い軍手ごと巻き込まれた。 | 移動 防液堤をまたいだ際に足場のブロックにつまづき剥離骨折 |
| 移動 動作の反動無理な動作 | 台車移動作業 はさまれ巻き込まれ | ろ過作業 有害物との接触 | 電極交換 はさまれ巻き込まれ | 取り出し 飛来落下 | 切断 はさまれ巻き込まれ | 点検 はさまれ巻き込まれ | 移動 激突 |
| 階段 | 台車部品に挟まれ | アルカリ性液体と接触 | 設備 | 金型 | 切断機 | 加熱冷却機 | コンクリートブロック |
| 捻挫 | 左手薬指と小指間の小骨の骨折 | 顔、上半身の薬傷 | 切創 | 骨折 | 骨折 | 骨折 | 骨折 |
| 不 休 | 不 休 | 不 休 | 不 休 | 不 休 | 不 休 | 不 休 | 不 休 |
| 36歳 | 58歳 | 39歳 | 46歳 | 45歳 | 51歳 | 47歳 | 56歳 |
| 5年 | 14年 | 18年 | 20年 | 15年 | 0年 | 1年 | 5年 |
| 協力会社 | 自社(パート) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 派遣 | 自社(従業員) | 派遣 |
| 階段の張り出し部で足を捻った | 足元に注意していたため手元が注意不足。 | バルブ操作の間違い。 | 挟まるおそれがあるのにホイストを稼働させた | 金型が倒れて足を骨折 | 手でメタルを取り出そうとして挟まれた | 自動回転中に手を出し、挟まれた | 仮設のブロックを踏み台にしていた |
| 安全教育(階段の4段目より飛び降りた) | 安全管理(設備)(レール内に日常的に入って作業していた。) | 安全管理(マニュアル)(少量設備での作業手順、安全管理が不十分。) | 安全管理(設備)(クレーン作業員から作業員が見えず、声掛けもなかった) | 安全教育(組立て型の金型なので分離する必要がある) | 安全管理(設備)(カバーがない) | 安全管理(マニュアル)(指導したベテランも同じ方法だった) | 安全管理(設備)(防液堤の中に人が立ち入る構造になっていない) |
| 安全教育(階段昇降時レールの徹底) | 安全管理(設備)(レール内に入る必要がないように設備を改善。) | 安全管理(マニュアル)(設備)(設備面、作業手順での安全対策と教育を実施。) | 安全管理(設備)(声掛けの徹底。挟まるような箇所を持たない。) | 安全教育(置場を再教育) | 安全管理(設備)(専用治具を使用) | 安全管理(マニュアル)(メンテ中は手で回転させながら行う) | 安全管理(設備)(階段の設置や通路を確保) |

| 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 |
|------------------------------------|---------------------------------------|---|---|---------------------------|---|---|--|
| 2011年3月14日 | 2011年4月2日 | 2011年5月19日 | 2011年6月7日 | 2011年6月10日 | 2011年11月21日 | 2011年11月30日 | 2011年12月27日 |
| 焼成 ドラム缶の上に乗って作業中、ふたがひっくり返り、陰部裂傷 | 歩行 階段を踏み外して捻挫 | 原料溶解 原料溶解槽原料投入中、槽内の塩酸スラリー液(塩酸濃度10~20%)が液跳ねし、右目に入り右眼角膜上皮損傷。 | 溶解炉清掃作業 第2CC溶解炉清掃作業中に炉内より異常燃焼発生にて負傷する。 | 粉砕 粉砕機内の高温水に手を触れたため火傷 | 切断 メタルを切断中に切断機とメタルの間に指を挟まれた | 溶解作業 解作業完了し詰所に戻る時に、通路上の開口部の蓋がずれて右足を踏み抜き打撲した。 | 点検 点検でシャフトを外していた際、エア一圧でシャフトが押し出され、太ももを裂傷。 |
| 焼成 墜落転落 | 歩行 墜落転落 | 原料溶解 有害物との接触 | 溶解炉清掃作業 高温低温の物との接触 | 粉砕 高温低温の物との接触 | 切断 はさまれ巻き込まれ | 溶解作業 激突 | 点検 激突され |
| ドラム | 階段 | 塩酸 | Mg | 高温 | 切断機 | 設備 | 炉 |
| 打撲 | 捻挫 | 眼薬傷 | 打撲、熱傷の疑い | 火傷 | 裂傷 | 打撲 | 裂傷 |
| 4日以上 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 49歳 | 37歳 | 30歳 | 32歳 | 62歳 | 38歳 | 20歳 | 40歳 |
| 30年 | 7年 | 0年 | 14年 | 4年 | 0年 | 2年 | 2年 |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 派遣 | 自社(従業員) | 協力会社 | 派遣 | 自社(従業員) | 派遣 |
| ドラム缶のふたがひっくり返った | 滑り止めテープが劣化していた | 酸性液が飛散し、眼に入った | 炉内の活性付着物に着火した。 | 高温水に手を入れた | 跳ね上がるメタルと切断機に挟まれた | 開口部蓋が一部変形していたことで蓋が抜けやすくなっていた。 | エア一圧の抜き忘れ |
| 安全教育(ドラム缶を作業台替りにした誤用) | 安全管理(設備)(水で床の清掃を行って階段まで濡れて滑りやすくなっていた) | 安全教育(保護メガネを未装着) | 安全管理(マニュアル)(活性が高い時の判断基準がない) | 安全管理(設備)(カバーがなかったので手が入った) | 安全管理(設備)(カバーがない) | 安全管理(設備)(作業通路にもかかわらず開口部蓋があった) | 安全管理(マニュアル)(装置トラブルの対応マニュアルがない) |
| 安全教育(誤用をしないことの周知徹底) | 安全管理(設備)(滑り止めテープの張り替え) | 安全教育(保護メガネ装着の徹底) 安全管理(設備)(液跳ね防止板の設置) | 安全管理(マニュアル)(活性が高い時の判断基準を作成) | 安全管理(設備)(中身を見れるように改造) | 安全管理(設備)(カバー設置)、安全教育(応急対策として切断中はメタル手を添えない事) | 安全管理(設備)(蓋が落ちないように溶接止めを行い、開口蓋を作業通路から外す) | 安全管理(マニュアル)(異常時マニュアルを作成) |

| 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 |
|---------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|--|---|--|--|
| 2012年8月9日 | 2013年8月24日 | 2013年10月19日 | 2013年12月11日 | 2014年2月25日 | 2014年3月17日 | 2014年4月24日 | 2014年6月20日 |
| 解体 作業架台から足を滑らせて落下中に裂傷。 | 切断 メタルを切断中に切断機とメタルの間に手を挟まれた。 | 作業 金型をクレーンで吊り上げた際、フックが外れて足を裂傷。 | 反応 希土類酸化物溶解時に、急激な反応によりガスが過剰発生した。 | 溶解作業 タンディッシュ予熱用台車(油圧ハンドリフター)の降下操作中に右手人差指を挟まれた。 | 点検作業 設備横に設置されている階段を昇ろうとした際、階段横にある隣の設備のモーターベルトカバーの角に右膝を強打し被災。 | 場内移動 夜勤時、別の建屋に移動中、原料ヤード内を小走りで通行中、配管根巻きにつまずき転倒。右足を捻った。 | 反応工程 原料投入時に、原料フレコンを切る際にカッター刃が左親指に接触し裂傷した。 |
| 解体 墜落転落 | 切断 はさまれ巻き込まれ | 作業 飛来落下 | 原料投入作業 有害物との接触 | 溶解作業 はさまれ巻き込まれ | 点検作業 切れこすれ | 場内移動 転倒 | 原料投入 切れこすれ |
| 炉体 裂傷 | 切断機 裂傷 | 金型 裂傷 | 酸化性ガスの吸引 異常なし | 設備 右示指切断 | 設備 裂創 | 配管根巻きにつまずき転倒 右足首の剥離骨折 | カッター刃に指が接触 左親指の裂傷 |
| 不休 44歳 2年 自社(従業員) | 不休 34歳 4年 自社(従業員) | 不休 27歳 2年 自社(従業員) | 4日未満 38歳 13年 自社(従業員2名①②)、 パート1名③) | 休業 34歳 1年 派遣 | 不休 49歳 3年 派遣 | 4日以上 25歳 7年 自社(従業員) | 不休 39歳 13年 自社(従業員) |
| 細い設備架台に足をかけて作業をした | 跳ね上がるメタルと切断機に挟まれた | 金型が外れて足を裂傷 | 希土類酸化物の投入が早過ぎた。 | タンディッシュ予熱用台車の昇降ストッパが無く、手指の挟まれ対策及び点検が不十分であった。 | Vベルトカバーの角にぶつけた | 暗い中で、足元の不注意。 | 不慣れな作業で注意不足。 |
| 安全管理(設備)(スペースが狭く、地上から回り込んでの作業が出来なかった) | 安全管理(設備)(カバーがない) | 安全管理(設備)(フックは目視確認だけだった) | 安全管理(マニュアル)(投入速度の手順が明確でなかった。) | 安全管理(マニュアル)(厳守事項の記載がなかった) | 安全管理(設備)(Vベルトカバーの角部が剥き出しであった) | 安全管理(マニュアル)(配管の多い原料ヤードを通行していた。工場内の通行のルールが不徹底。) | 安全管理(設備)(フレコンが揺れるため、添え手が必要な作業になっていた。) |
| 安全管理(設備)(周辺を整理し、地上作業を可能にした) | 安全管理(設備)(両手スイッチに変更) | 安全管理(設備)(金型吊り具開き防止バーを設置) | 安全管理(マニュアル)(手順を明確にした。) 安全管理(設備)(また過剰に投入できないように設備を改善した。) | 安全管理(設備)(安全対策をした台車に変更)、安全教育及び安全管理(マニュアル)(厳守事項追記と再教育) | 安全管理(設備)(Vベルトカバー角部が緩衝材を取り付けた) | 安全管理(マニュアル)(工場内で通行のルールを定める。) | 安全管理(設備)(架台を設置し、フレコンを固定する。) |

| 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 |
|---|---|--|---|--|--|--|---|
| 2014年9月7日 | 2014年10月20日 | 2014年11月6日 | 2015年1月15日 | 2015年2月4日 | 2015年2月10日 | 2015年3月25日 | 2015年4月30日 |
| 焼成工程 中間品をフレコンに投入する準備中に作業台から転落した。 | 反応工程 酸性薬品を送液する時に、ポンプ部が破損し薬液が飛散し、薬品を浴びた。 | メンテナンス 排水中和用の酸溶液配管の切断する際、間違っ てアルカリ溶液配管を切 断。アルカリ液が飛散し右 ひだに掛かった。 | トラバーサ(重量物移動) 重量約4tの台車を2人で 移動した。引側の足先 がトラバーサ下の隙間に 入り挟まれた。(安全靴破 損) 過去、引側で積 荷転倒事故も発生し、押 側での作業を指導してい た。 | 移動 クレーンでドラム缶を移動 時にフォークリフトとドラム 缶に手を挟まれた。 | 切断 サンプル容器をカッターで 切断中に手を切った。 | 焼成工程 異常対応で安全チェーン と支え棒を外して作業中、 床面の支え棒の枠(でっ ぱり)につまずき転倒し、 柱に手を打ちつけた。 | 清掃 分電盤の下にあったコン セントに掃除機のコンセ ントを差し込もうとかがんだ 際に額を切った。 |
| 中間品投入準備作業 墜落転落 | 薬品送液作業 有害物との接触 | 薬品の配管工事作業 有害物との接触 | トラバーサ(重量物移動) はさまれ巻き込まれ | 移動 はさまれ巻き込まれ | 切断 切れこすれ | 異常対応作業 転倒 | 清掃 激突 |
| 作業台から落下 | 酸薬品に接触 | アルカリ薬品に接触 | トラバーサ | クレーン | カッター | 床面の支え棒の枠につま ずき転倒 | 分電盤 |
| 肋骨の骨折 | 全身の薬傷 | 右ひざの薬傷 | 足指骨折 | 裂傷 | 裂傷 | 右手の打撲 | 裂傷 |
| 4日以上 | 4日以上 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| — | 44歳 | 38歳 | 22歳 | 48歳 | 30歳 | 49歳 | 38歳 |
| 1年 | 26年 | 11年 | 3年 | 0年 | 0年 | 31年 | 0年 |
| 派遣社員 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 派遣 | 派遣 | 自社(従業員) | 派遣 |
| 足を踏み外した。 | 破損したポンプの材質が 適切でなかった。 | 切断する配管を間違え た。 | トラバーサの間に隙間 があった為 | ドラム缶を手で止めようと して挟まれた | 不安定な丸い容器をカッ ターで切った | 床面が暗く、支え棒の枠 に気が付かなかった。 | コンセントの真上に分電 盤が飛び出していた |
| 安全管理(設備)(作業自 体が無理な体制での不安 全な作業であった。) | 安全管理(マニュアル)(ポ ンプ更新時の確認不足。 保護具の着用が不十分。) | 安全教育(一部の溝蓋の み外して作業したため、配 管の確認が不十分だっ た。) | 安全管理(設備)(隙間が あった) | 安全管理(設備)(クレーン の通行箇所にはフォークリ フトを停車させた) | 安全教育(元々中身は溶 かして出すことになってい た) | 安全管理(設備)(床面が 暗い中、支え棒を抜くと床 面にでっぱりがでる状態 であった。) | 安全教育(ヘルメット不着 用) |
| 安全管理(設備)(作業台 の改善。) | 安全管理(設備)(設備購 入時の材質確認の設定。 作業員が薬品を浴びない レイアウト変更。 安全教育(保護具着用の 教育実施。) | 安全教育(配管が隠れて いるか所では、できるだ開 口ライン位置を十分に 確認して作業するように教 育を実施。) | 安全管理(設備)(隙間を 無くす様溝を埋める) 安全教育(引かず、押す作 業に作業改定) | 安全管理(設備)(クレーン 通行箇所を確保) | 安全教育(この工程では カッターの使用禁止)、安 全管理(マニュアル)(カッ ターを使用せず、溶解す る事) | 安全管理(設備)(支え棒 が抜けないように改善。ま た目立つようにペンキを 塗った。床面を照明を設 置した。) | 安全管理(設備)(分電盤 を移設した) |

| 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 |
|--|---|---|---|--|---|--|---|
| 2015年5月19日 | 2015年6月15日 | 2015年7月17日 | 2015年9月4日 | 2016年11月3日 | 2018年8月30日 | 2018年4月25日 | 2018年6月4日 |
| 濾過 | 分析 | 原料移送 | 廃水処理 | 金属 | 解体 | 原料運搬・秤量・供給 | 解体 |
| 濾過機の濾板を移動中にブロックと濾板の間に手を挟まれた。 | 硝酸をポリ容器(18L)から洗ビンに移す作業中に、洗ビンを落とし、とび跳ねた硝酸を、唇と右頬、首筋に浴び、すぐに水で洗ったが軽い火傷のような赤いふくらみが見えた。 | リーチリフトにて原料を送ろうとバックで切返しを行ったところ、タイヤがスリップし操縦が利かず、柱にリフトが接触した。その際にリフトと柱の間に左足が挟まれた。 | 濾過機で汚泥処理をしている際に、濾過機が異常により停止、濾板の汚泥を手作業で掻き落としていた。自動運転再開後も手作業を続け、駆動部と濾板の間に右手を挟まれた。 | 材料梱包木箱を解体し、釘のついた板材を所定場所へ移動中(2人作業)バランスが崩れ、釘が出ている面が作業者の左大腿に落下し、左大腿を裂創。 | 高所にある照明設備の撤去時に、長い工具を使用し、力を入れて引っ張ったところ、作業者に向かって落下した。 | 中間品を連続して容器に詰める作業をしていたところ、容器を取る際に上腕部に痛みを感じた。 | 不要配管撤去中に誤って付近の槽の蓋に足を乗せ蓋がずれ槽の内部に転落した。 <槽の深さは、約3.2m。天板の最高部分から底までは約3.6m。> |
| 濾過 | 計量・梱包 | 原料運搬・秤量・供給 | 濾過 | 運搬 | 解体 | 原料運搬・秤量・供給 | 解体 |
| はさまれ巻き込まれ | 有害物との接触 | はさまれ巻き込まれ | はさまれ巻き込まれ | 切れこすれ | 切れこすれ | 動作の反動無理な動作 | 墜落転落 |
| 濾過機 | 硝酸 | リーチリフト | 濾過機 | 釘 | 照明設備(笠) | 詰め機 | 槽の天板から落下 |
| 裂傷 | 唇、右頬、首筋・薬傷 | 左足関節亜脱臼 | 右尺骨神経損傷 | 左大腿裂創 | 額 | 右腕 | 肋骨3か所、背骨1か所、骨盤骨折 |
| 不休 | 不休 | 4日以上 | 4日未満 | 不休 | 不休 | 不休 | 4日以上 |
| 46歳 | 25歳 | 29歳 | 27歳 | 22歳 | 60歳 | 41歳 | 73歳 |
| 0年 | 3ヶ月 | 2年 | 8年 | 4年 | 2年 | 4年 | 54年 |
| 派遣 | 派遣 | 派遣 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(パート) | 自社(パート) | 協力会社 |
| 稼働中の物を手で直そうとして挟まれた | 安全管理(設備):手作業で硝酸の移し替えを行う作業であり、また、飛散防止対策が取られていなかった。 | 屋外通行しタイヤが濡れていたにもかかわらず、安全を優先した運転を行っていなかった。 | 自動運転中に設備内に手を挿入して作業を行った。 | 安全管理(マニュアル):板の下側に釘が出た。 | 安全管理:不適切な作業手順、安全対策が取られていなかった。 | 安全管理(設備):無理な体勢で連続作業を行った。 | 安全管理(マニュアル):工事前の準備不足により、作業準備段階で危険個所の特定、その周知・教育が徹底されていなかった。 |
| 安全管理(設備)(緩んでいた部品を放置していた) | 安全管理(教育):酸が飛散した場合の被害等、教育不足であった。 | 安全教育(リフト運転についての安全運転の知識の不足) | 安全管理(設備)(マニュアル)(濾過機の異常が頻繁に起こるため、手作業が常態化していた。) | 安全管理(設備):手作業で運搬していた。 | 安全管理(教育):作業時の安全確認不足、非定常作業についての安全教育が不十分であった。 | 安全教育(マニュアル):前日に詰め量を通常の2倍の個数を実施し、疲労が蓄積していた。 | 安全管理(設備):安全確保の未実施により、危険個所への警鐘表示または、リスク軽減措置を行っていなかった。転落の可能性のある危険な場所へ侵入阻止ロープは張られず、十分な足場も確保できていなかった。 |
| 安全管理(設備)(部品は定期点検する。手が入ると止まるようなセンサーを検討) | 安全管理(設備):自動で移し替えが出来る設備に改良する。また、飛散防止カバーも設置する。 | 安全教育(全派遣社員にビデオによる教育を実施した。) 安全管理(設備)(ノンスリップタイヤに交換、床面を砂入り塗装する。) 安全管理(マニュアル)(リーチリフトの速度の見直しと、雨に濡れないリフト通行ルートの設定) | 安全教育(濾過機異常時の対処方法を再教育した。) 安全管理(設備)(濾過機の異常を改善するとともに、安全枠を取り付けて手が入らないようにした。) | 安全管理(マニュアル):釘を切断後運搬する。 | 安全教育:再教育を実施した。 安全管理:非定常作業の作業内容及び危険性を作業前に周知するようにした。 | 安全管理(設備):ローラーを延長し作業補助者を付した。 安全教育(マニュアル):1日の詰め個数を制限した。 | 安全管理(マニュアル):安全管理体制の見直し。工事従事者全員に対し、安全朝礼実施(毎朝8:00)、夕礼の実施(毎夕17:00)を実施。安全監督者の設置し現場監視を強化した。 |

| 69 | 70 | 71 |
|---|---|--|
| 2018年7月17日 | 2018年8月16日 | 2018年12月12日 |
| 解体 廃棄する槽を電動グライ ンダーで切断中、刃が噛 み込み反発力で本体が弾 け飛んで刃が膝に当たり2 か所の裂傷を負った。 | 点検 焼成炉の台車ベアリング のグリスアップ中、台車付 近の作業線内にあるSUS 製板を踏み抜き転落し た。 | 原料投入 原料溶解作業中、フレコン の外袋と内袋をまとめて カッターナイフで切ったと ころ、左手親指を裂傷し た。 |
| 解体 切れこすれ | メンテ 墜落転落 | 原料投入 切れこすれ |
| グラインダー | 設備架台から落下 | カッター刃に指が接触 |
| 左ひざ | 右膝蓋骨、左大腿 | 左手 |
| 不休 | 4日以上 | 不休 |
| 28歳 | 54歳 | 19歳 |
| 8年 | 1年 | 1年 |
| 協力会社 | 自社(パート) | 自社(従業員) |
| 安全管理(マニュアル):グ ラインダー切断作業時の 基本動作、基本操作の不 徹底。 機器の取り扱いを行う際 の作業の教育が徹底され ていなかった。 | 安全管理(マニュアル): 不慣れな作業者に作業前 KYで注意喚起もせず、メ ンテナンス作業をさせてい た。 | 安全管理(マニュアル): 不慣れな作業で注意不 足。 |
| 安全管理(マニュアル): 暑さによる疲労が蓄積し、 作業時に注意力が疎かに なり事故に至った。 | 安全管理(設備):過去の 材質はプラスチック製板を 固定していたが、高温に より溶けることが発生する ため、SUS製の板へ変更 したが踏み抜きやすい状 態で設置していた。 | 安全管理(設備)(容器が 揺れるため、添え手が必 要な作業になっていた。) |
| 安全教育:電動工具等取 扱の基本動作、基本操作 再指導を実施。朝礼時の 作業員体調確認、作業監 督者を通じての注意喚起 を実施した。 | 安全管理(マニュアル):メ ンテナンス作業は、作業 前のKYを確実に実施す る。 安全管理(設備):SUS製 板の裏側に落下防止サ ポートを設置した。 | 安全管理(設備)(架台を 設置し、フレコンを固定す る。) |

■別表5
タンタル 保安事故事例

| No | | 想定リスク(酸化物)-1 | 想定リスク(炭化物)-1 | 想定リスク(粉)-1 | 想定リスク(粉)-2 | 想定リスク(粉)-3 | 想定リスク(粉)-4 | 想定リスク(粉)-5 |
|--------|-----------------------|--------------------------------|-------------------------------------|--|--|--|---|---|
| 発生年月日 | | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク |
| 発災工程分類 | | 抽出 | 炭化 | 還元反応 | 酸洗 | 乾燥、熱処理、脱酸素 | 清掃・メンテナンス | 清掃・メンテナンス |
| 事故発生概要 | | 工事中に抽出装置から有機溶剤が揮発し、火器使用で火災となる。 | 腐食した冷却水がもれて、炉内に入り爆発。 | ナトリウム供給配管からナトリウムが漏れ、炉の冷却水配管から漏れた水と接触して発火、爆発する。 | 水、酸等規定量入らずにスタートし、乾燥したタンタル粉が攪拌の摩擦、衝撃で着火して設備火災となる。 | 運転中にバルブ不良等により空気が機器内に入り、加熱されたタンタル粉が着火して設備火災となる。 | 工場の火花がこぼれていたタンタル粉に接触、着火し、可燃物に延焼する。 | 工事又は修理の際に清掃に一般の真空掃除機を使用し、吸引されたタンタル粉の着火により掃除機が発火し、延焼して火災となる。 |
| 1 | 発災工程 | 抽出装置 | 炭化炉 | 還元反応 | 酸洗 | 乾燥、熱処理、脱酸素 | 解砕、熱処理、脱酸素 | 解砕、熱処理、脱酸素 |
| | プロセス条件 | 装置のメンテナンスで装置内の有機溶剤が揮発 | 炉体の破損を防ぐために冷却水を流す | 原料をナトリウムで還元して金属タンタルを生成する。 | 酸でタンタル粉を洗浄 | 真空中で加熱 | 設備メンテナンス | 設備メンテナンス |
| 2 | 物質 | 有機溶剤 | 高温炉体 | ナトリウム | タンタル粉 | タンタル粉 | タンタル粉 | タンタル粉 |
| | 潜在エネルギー危険性 | 揮発した有機溶剤 | 冷却水と千数百度の炉体接触による爆発 | 供給配管から漏れたナトリウムと、漏洩した炉冷却水の接触による発火、爆発 | タンタル粉が摩擦、衝撃で着火し、設備火災になる。 | 加熱されたタンタル粉が空気と接触して着火し、設備火災になる。 | タンタル粉が火花で着火し、周囲可燃物に延焼する。 | タンタル粉が静電気で着火し、周囲可燃物に延焼する。 |
| 3 | 保安事故分類 | 火災 | 爆発 | 爆発 | 火災 | 火災 | 火災 | 火災 |
| 4 | 人的被害 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 物的被害 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | - | - | - | - | - | - | - |
| 5 | 直接要因 | 有機溶剤に引火 | 水蒸気爆発(冷却管の破損) | ナトリウムと水の接触 | タンタル粉が摩擦、衝撃で着火する。 | 機器のバルブ不良等により機器内に空気が入る。 | タンタル粉が火花で着火する。 | 一般真空掃除機使用時の静電気でタンタル粉が着火した。 |
| | 間接要因 | 安全教育 有機溶剤の揮発、引火点などの知識不足 | 安全教育 炉メンテナンス基準 | 安全管理(設備) 配管からの漏れ | 安全管理(設備) 水、酸等が規定量入らない | 安全管理(設備) 定期点検、メンテナンスの不十分 | 安全教育 タンタル粉着火危険性の知識不足 | 安全教育 タンタル粉着火危険性の知識不足 |
| 安全対策 | | 安全管理(作業方法、危険性に関する教育) | 安全管理(マニュアル)(冷却管の漏れチェック)、安全教育(爆発危険性) | 安全管理(マニュアル:ナトリウム供給配管、炉冷却配管の漏れチェック、設備:配管ルート分離、耐震補強)、安全教育(危険物の接触による発火・爆発危険性) | 安全管理(設備:水、酸の実投入量モニター) | 安全管理(設備:バルブ二重化、空気混入時は加熱停止、不活性ガス封入) | 安全教育(工事関係者への作業方法、危険性に関する教育)、安全管理(作業時漏れこぼれへの対応、対策) | 安全教育(工事関係者への作業方法、危険性に関する教育)、安全管理(作業時漏れこぼれへの対応、対策) |

| 想定リスク(粉) - 6 | 粉 - 1 |
|---|--|
| 想定リスク | 2007年8月23日 |
| 集塵 | 回収・リサイクル |
| 局所排気設備への配管内に堆積したタンタル粉が摩擦/静電気により着火し、延焼して設備火災となる。 | 工程排水内のタンタル含有堆積物を乾燥後保管していたファイバードラムが燃え、周囲可燃物に延焼した。 |
| 解砕、熱処理、脱酸素 | 回収・リサイクル |
| 発生するタンタル微粉の吸引 | タンタル含有堆積物を熱風乾燥する。 |
| タンタル粉 | タンタル化合物 |
| 堆積したタンタル粉が摩擦により着火し、延焼する。 | タンタルが発火し、周囲可燃物を燃やす。 |
| 火災 | 火災 |
| - | - |
| - | あり |
| - | 従業員 |
| 堆積したタンタル粉が摩擦により着火し、延焼する。 | (推定)乾燥後保管中に蓄積した熱でタンタルが発火し、可燃物に延焼。 |
| 安全管理 | 安全管理(プロセス) |
| 定期点検、メンテナンスの不十分 | 堆積物の発火危険性に関する知見不足 |
| 安全管理(設備:局所排気配管定期点検) | 安全管理(プロセス):乾燥廃止。回収堆積物はスラリー状態で取り扱う。 |

■別表6
タンタル 労働災害事例

| No | | 想定リスク(酸化物)-1 | 想定リスク(酸化物)-2 | 想定リスク(酸化物)-3 | 想定リスク(炭化物)-1 | 想定リスク(炭化物)-2 | 想定リスク(炭化物)-3 | 想定リスク(炭化物)-4 |
|--------|-----------------------|---------------------|---------------------|-------------------------|--|------------------------|---------------------|-----------------------|
| 発生年月日 | | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク | 想定リスク |
| 発災工程分類 | | 溶解 | 清掃 | 仮焼 | 混合 | 炭化 | その他 | 粉碎・分級 |
| 事故発生概要 | | 原料投入時に酸が突沸 | タンク清掃時、洗浄不十分で残液と接触 | 作業を急いで焼成品を取り出すとき、高温物と接触 | 混合機内清掃中、スイッチに触ってしまい、急に攪拌羽根が回転して腕をはさまれる | 冷却中の炭化物に接触 | 順路以外の炉側面を通行中に炉と接触 | 分級中に発塵した製品を吸い込む |
| 1 | 発災工程 | 溶解槽 | 抽出 | 取出し | 混合機 | 炭化 | 炭化炉 | 分級 |
| 2 | 労働災害分類 | 有害物との接触 | 有害物との接触 | 高温物との接触 | 挟まれ巻き込まれ | 高温物との接触 | 高温物との接触 | 有害物 |
| | 有害物質 | 酸の突沸 | 残液(酸洗浄) | 焼成品(高温) | 混合機の攪拌羽根 | 炭化物(高温) | 炭化炉(高温) | 製品粉塵 |
| 3 | 負傷部位・程度 | | | | | | | |
| | 休業日数等 | | | | | | | |
| | 年齢 | | | | | | | |
| | 経験年数(年) | | | | | | | |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | | | | | | | |
| 4 | 直接要因 | 原料投入条件 | 洗浄不足 | 焼成品の温度 | 電源投入 | 炭化物の温度 | 炉のカバー不足 | 集塵排気不足 |
| | 間接要因 | 安全教育 酸溶解に関する知識不足 | 安全教育 酸溶解に関する知識不足 | 安全教育 冷える前に触った | 安全教育 作業中にスイッチ触った | 安全教育 冷える前に触った | 安全教育 順路以外を通行 | 安全教育 保護具未着装 |
| 安全対策 | | 安全教育(作業手順書の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全管理(冷却まで立入禁止、作業手順の徹底) | 安全教育(手順書の徹底) | 安全管理(冷却まで立入禁止、作業手順の徹底) | 安全管理(炉のカバー、点検順路の徹底) | 安全管理(集塵環境整備、保護具着用の徹底) |

| 酸化物 - 1 2005.9.13 | 酸化物 - 2 2008.3.16 | 酸化物 - 3 2010.1.7 | 酸化物 - 4 2013.1.17 | 酸化物 - 5 2013.8.26 | 酸化物 - 6 2017.11.11 | 酸化物 - 7 2018.9.5 | 酸化物 - 8 2019.10.5 |
|--|--|---|--|---|--|--|---|
| その他 薬液をタンクローリーからタンクへ移液する際に、タンク側のバルブを閉のまま、ローリー側のバルブを全開にしたために、圧力に耐えられず、フランジ部とバンドで固定していたホースが外れ被液した | その他 控え室から作業場へ移動する際に、通路床面の突起物(高さ5mm、長さ50mm;配管サポートの撤去残)に躓き転倒。 | 原料粉砕 原料(切削屑)を袋から取り出し、原料で手袋ごと切れ切創 | メンテ 攪拌機を止めずに、攪拌機のベアリングにグリスアップを行ったため、手を攪拌機のシャフトに巻込まれた。 | 原料粉砕 容器からスクラップ原料をスコップで掬った際、原料が手に当り、手袋ごと切れ切創。 | メンテ 梱包工程の製品供給設備(スクリュウフィーダー)の清掃作業の際、装置の停止を忘れ、ゴム手袋のまま、供給部へ手を入れた。 | メンテ スクラパーのマノメーターホースの補修作業で、配管を結束バンドで固定し、余分な部分を指で挟んでハサミで切り落とす際、誤って一緒に皮膚を切った | その他(運搬) 装置の試運転を行うため、装置横に置いていた架台(120kg)を3人で持ち上げなければ、リフターで移動するよう指示があったが、2名で持ち上がったので、移動(5m)したところ、翌日、右膝に痛みが発生。 |
| 液受入れ 有害物との接触 | 工程内通路 転倒 | 前処理 切れこすれ | 抽出 挟まれ巻き込まれ | 前処理 切れこすれ | 梱包 挟まれ・巻き込まれ | メンテナンス 切れこすれ | その他(運搬) 動作の反動・無理な動作 |
| アルカリ液 | 床面の突起物 | 切断屑 | 攪拌機 | スクラップ原料 | スクリュウフィーダー | 不適切な工具(ハサミ) | 架台 |
| 臀部・股間薬傷と喉の炎症 | 左手剥離骨折 | 左手切創 | 右手裂傷・打撲 | 右手切創 | 右手薬指先端部欠損 | 左手人差指第2関節部切創 | 右膝外側半月板損傷 |
| 休業(14日) 43 0.5 | 不休 47 8.8 | 不休 52 10 | 不休 27 0.25 | 不休 37 0.1 | 休業(30日) 25 0.3 | 不休 51 33 | 休業(46日) 44 16 |
| 外部業者 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 派遣 | 派遣 | 派遣 | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| アルカリ液 | 通路突起物 | 切断屑(鋭利) | 攪拌機(シャフト)を止めず作業 | スクラップ原料(鋭利) | スクリュウフィーダー(刃) | 工具が適切でなく(簡単に切れない)、作業手順にも問題があった(手元確認せず) | 人が持ち上げてよい重量は25kgまでとしていたが、制限を超えて持ち上げた |
| 安全管理・教育 | 安全管理(設備) | 安全管理・教育 | 安全管理、教育 | 安全管理 | 安全管理(設備) | 安全教育 | 安全管理・教育 |
| 作業手順どおりの操作を行わなかった。またフランジ部とバンドで固定してホースが外れた | 照明が暗かった | 作業性が悪いため鎖手袋を着用せず、革手袋のみで作業した | 注油口がシャフトに近く、また作業手順がなかった | 保護具が皮手袋だけであり、通常のスコップを用いていたため、原料が手に当たった | スクリュウフィーダーの運転状態が確認し難く、清掃時に装置が確実に停止する構造になっていなかった。 | 結束バンドの切断について適切な工具と方法でなかった。 | 監督職の立ち会っていない非常作業で、実際は、3人でも制限重量(25kg/人)を超えていたにも拘わらず、指示が曖昧であった(持ち上がらなかったら、リフターを使用との指示)。 |
| 安全管理・教育(フランジ一体型のホースへ変更し、また受入バルブの開閉状況が分り易いように、ハンドル式からレバー式に変更。および操作手順の再教育を実施) | 安全管理(設備)(通路床面の突起物を撤去し、また照明の位置変え、床面を明るくした) | 安全管理・教育(耐切創用手袋を鎖手袋より、作業性のよいケブラー手袋に変更し、また保護具着用の教育を行った) | 安全管理・教育(注油口を変更(シャフトから離す)し、また作業手順書作成した) | 安全管理(設備)(保護具を皮手と耐切創手袋の2重として、スコップを原料が手に当り難い、専用スコップへ変更) | 安全管理(設備)(スクリュウフィーダー部に、インターロック付カバーを取り付け、清掃時はカバーを開けて(設備が強制停止)行うように改造。また運転状態が分るようランプを設置。) | 安全管理(設備)・教育(結束バンドの切断工具は、ニッパーとし作業手順を決めた) | 安全管理・教育(監督職不在時の休日・夜間の非常作業は原則禁止(ルール化)とし、また重量物運搬について、再教育を実施。) |

| 想定リスク(粉) - 1 想定リスク | 想定リスク(粉) - 2 想定リスク | 想定リスク(粉) - 3 想定リスク | 想定リスク(粉) - 4 想定リスク | 想定リスク(粉) - 5 想定リスク | 想定リスク(粉) - 6 想定リスク | 想定リスク(粉) - 7 想定リスク | 想定リスク(粉) - 8 想定リスク |
|---|--|---|--|--|--|--|---------------------------------------|
| 還元反応 貯蔵タンクにナトリウム受け入れの際、取り外した受入口フランジに付着したナトリウムと接触 | 還元反応 ナトリウム供給ラインから漏洩したナトリウムに作業者が接触 | 還元反応 反応容器加熱中、不調の熱電対を交換する際に反応容器に体が触れる | 冷却 反応容器をクレーンで運搬する際、操作を間違い、他作業者に接触する | 酸洗 配管フランジから酸が漏洩し、作業者が被液する | 乾燥 乾燥したタンタル粉の入った容器を台車に積み降ろしする際、姿勢が悪く腰を痛める | 熱処理 タンタル粉を入れた容器を台車から積み降ろしする際に、急いでいて容器と容器の間で手を挟む | 解砕 タンタル粉の入った容器を押して移動する際、姿勢が悪く腰を痛める |
| 還元反応 有害物との接触 | 還元反応 有害物との接触 | 還元反応 高温低温の物との接触 | 冷却 激突され | 酸洗 有害物との接触 | 乾燥 動作の反動無理な動作 | 熱処理 はさまれ巻き込まれ | 解砕 動作の反動無理な動作 |
| ナトリウム | ナトリウム | 反応容器 | 反応容器 | 酸 | 容器 | 容器 | 容器 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 協力企業 | 派遣 | 協力企業 |
| ナトリウムと接触 | ナトリウムと接触 | 高温の反応容器と接触 | 重量物との接触 | 酸と接触 | 不適切な姿勢での重量物の移動 | 容器間に手を挟む | 不適切な姿勢での重量物の移動 |
| 安全教育 | 安全管理 | 安全教育 | 安全教育 | 安全管理 | 安全教育 | 安全教育 | 安全教育 |
| ナトリウムの危険性に関する知識不足 | 設備:機能、材質不備、点検不十分 | 危険予知不十分 | 危険予知不十分 | 設備:機能、材質不備、点検不十分 | 危険予知不十分 | 危険予知不十分 | 危険予知不十分 |
| 安全教育(危険性認識及び指定保護具着用) | 安全管理(設備:定期点検、保護カバー)、安全教育(危険性認識及び指定保護具着用) | 安全教育(危険性認識及び指定保護具着用) | 安全教育(危険性認識) | 安全管理(設備:定期点検、保護カバー)、安全教育(危険性認識及び指定保護具着用) | 安全教育(作業姿勢、危険性認識、体操、腰痛ベルト着用) | 安全教育(危険性認識) | 安全教育(作業姿勢、危険性認識、体操、腰痛ベルト着用) |

| 想定リスク(粉) - 9 想定リスク | 想定リスク(粉) - 10 想定リスク | 粉 - 1 2007年7月6日 | 粉 - 2 2008年2月26日 | 粉 - 3 2010年9月16日 | 粉 - 4 2017年10月25日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 脱酸素 タンタル粉を入れた容器を 炉にセットする際、炉内枠 と容器の間に指を挟む | 解砕、熱処理、脱酸素 不活性ガス配管から漏れ があり、作業場所の酸素 濃度が低下する | 清掃・メンテナンス パンチングメタルをグライ ンダーで切断後、バリ取り の際に破損した砥石の破 片が鼻に当たった。 | 還元反応 炉ステージ上でテストの様 子をビデオ撮影後、ステー ジから降りようとして落下 した(75cm)。 | 脱酸素 修理に出すラックを手押し 台車で立てて運搬中に ラックが倒れ、左手にぶつ かった。 | 熱処理 熱処理後に処理皿をク リーニングする際、処理皿 に残留したタンタルを取り 出そうとして振り下ろした 治具の衝撃で、右3中手骨 を骨折した。 |
| 脱酸素 はさまれ巻き込まれ | 解砕、熱処理、脱酸素 有害物との接触 | 清掃・メンテナンス 切れこすれ | 還元反応 墜落転落 | 清掃・メンテナンス 激突され | 熱処理 動作の反動無理な動作 |
| 炉内枠と容器 | 不活性ガス | グラインダー切断砥石 | 還元炉 | 設備ラック | 剥離治具 |
| | | 鼻挫創 | 右肘脱臼及び骨折 | 左手指指骨折 | 右手中手骨骨折 |
| | | 不休 | 21 | 不休 | 不休 |
| | | 43 | 38 | 45 | 53 |
| | | 28.3 | 8.3 | 0.6 | 0.1 |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 協力会社 | 自社(従業員) | 派遣 | 派遣 |
| 炉内枠と容器間に指を挟 む | 酸素濃度低下 | 破損した切断砥石との接 触。 | 炉ステージ(75cm)から落 下。 | 倒れるラックと接触。 | 振り下ろした治具の衝撃 |
| 安全教育 | 安全管理 | 安全教育 | 危険性評価 | 安全教育 | 危険性評価 |
| 危険予知不十分 | 設備:機能、材質不備、点 検不十分 | バリ取り砥石でなく、切断 砥石で作業した | 作業前の危険予知が不十 分 | 未訓練作業を非正規の方 法で実施した | 作業方法に関する評価が 不十分 |
| 安全教育(危険性認識) | 安全管理(設備:定期点 検、酸素濃度計)、安全教 育(危険性認識) | 安全教育:適切な治具使 用及び作業前危険予知の 再教育。 | 安全管理(設備:ステー ジ上に安全柵を設置。)安全 教育(作業前危険予知の 再教育。) | 安全管理(設備:転倒可能 性の無い専用台車を作 成。) 安全教育(未訓練作業を 行わないよう再教育。) | 安全管理・教育(作業の危 険箇所を再見直した上 で、作業標準を改訂し、再 教育。) |

■別表7
ターゲット 保安事故事例

| No. | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 1 | 2 |
|--------|-----------------------|-------------------------------|---|--------------------------|--|-----------------------------|
| 発生年月日 | | — | — | — | 2013年6月21日 | 2014年10月18日 |
| 発災工程分類 | | 溶解・鋳造 | 粗加工 | 焼結 | ボンディング | 原料(湿式処理室) |
| 事故発生概要 | | 溶解した湯に冷却水が入り爆発の恐れ | 排気ダクトに堆積した粉じんや、ごみ箱に捨てた粉じんが何らかの原因で着火し、爆発を起こす | 加熱された炉内に冷却水が入り爆発の恐れ | 埃または導電性の粉塵を伴うトラッキングにより火災発生 | 小型クリーンユニット発火による火災、消火器一本で消火 |
| 1 | 発災工程 | 溶解・鋳造 | グラインダー等 | 焼成工程 | 切削加工 | 湿式処理 |
| | プロセス条件 | 炉体の保護のために冷却水を流す | 加工により粉じんが発生する | 炉体の保護のために冷却水を流す | コンセント部分 | 設備故障による発火 |
| 2 | 物質 | 金属が溶けた湯 | 可燃性の粉じん | 加熱された炉内・水 | 粉塵 | なし |
| | 潜在エネルギー危険性 | 1000℃以上の湯と冷却水の接触による爆発 | 爆発 | 1000℃以上の雰囲気中に冷却水が漏れる | 100V電源 | 100V電源 |
| 3 | 保安事故分類 | 爆発 | 爆発 | 爆発 | 火災 | 火災 |
| 4 | 人的被害 | — | — | — | なし | なし |
| | 物的被害 | — | — | — | あり | あり |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | — | — | — | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 5 | 直接要因 | 配管の破損 | 粉じん爆発 | 配管の破損 | トラッキング | 設備故障 |
| | 間接要因 | 安全管理(マニュアル) 炉の保守メンテ不足 | 安全管理(マニュアル) 可燃性の知識、確認不足、清掃不足 | 安全管理(マニュアル) 炉の保守メンテ不足 | 安全管理(マニュアル) 清掃、定期確認不足 | 安全管理(マニュアル) メーカーによる調査、点検 |
| 安全対策 | | 安全管理(マニュアル)(冷却水の管理および設備の目視確認) | 安全管理(マニュアル)(SDS確認、燃焼試験、定期清掃) | 安全管理(冷却水の管理および設備の目視確認) | 安全管理(マニュアル)(コンセント点検、清掃) 安全管理(設備)(蓋設置) 安全教育(定期巡視) | 安全管理(マニュアル)(点検) |

■別表8-1
ターゲット 想定労働災害

| 想定リスク番号 | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 想定リスク-4 | 想定リスク-5 | 想定リスク-6 | 想定リスク-7 |
|---------|-----------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|------------------------|-----------------------------|----------------------|-----------------------------|--|
| 発災工程分類 | | 原料 | 溶解 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | インゴット切断 |
| 事故発生概要 | | 洗浄槽から薬液(酸やアルカリ、有機溶剤)が飛散し、薬液と接触する。 | 溶融メルトから予期しない有毒ガスが発生する(るつぼとの反応、添加物など)。 | 熱せられたインゴットへの接触により火傷する。 | 重量物取扱いによる腰痛になる。 | インゴットの落下により負傷する。 | 溶解炉内が酸欠になっており、吸い込む。 | ・切断刃への接触により裂傷する。 ・鋭利な切断面への接触により裂傷する。 |
| 1 | 発災工程 | 原料、精製 | 溶解 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | 溶解・鋳造 | インゴット切断 |
| 2 | 労働災害分類 | 有害物との接触 | 有害物との接触 | 高温物との接触 | 動作の反動・無理な動作 | 飛来落下 | 酸欠状態 | 切れこすれ |
| | 有害物質 | 酸やアルカリの薬液 | 有害ガス | 高温物との接触 | 重量物 | インゴット(溶解物) | 窒素, Ar等 | 切断刃 材料切断面 |
| 3 | 負傷部位・程度 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 休業日数等 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 年齢 | - | - | - | - | - | - | - |
| | 経過年数(年) | - | - | - | - | - | - | - |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | - | - | - | - | - | - | - |
| 4 | 直接要因 | ルール順守しない | 溶解条件、組成 | ルール順守しない | ルール順守しない | ハンドリングミス | 酸欠ガスの吸い込み | ルール順守しない カバーの不備 |
| | 間接要因 | 安全教育(薬品取り扱いのルール、保護具着用) | 安全管理(マニュアル)(事前検討が不十分)、安全教育(保護具未着装) | 安全教育(表示不十分) | 安全教育(重量物の取り扱いルールの知識不足) | 安全教育(取り扱いのルールの知識不足) | 安全教育(メンテ時の手順の知識不足) | 安全教育(切断作業の知識不足) |
| 安全対策 | | 安全教育(必要な保護具着用の徹底、作業手順) | 安全管理(設備)(保護具、センサー) 安全教育(保護具、SDS) | 安全教育(熱いものへの表示の徹底) | 安全教育(重量物取扱いの手順教育。必要な保護具の着装) | 安全教育(インゴット取り扱いルール徹底) | 安全管理(マニュアル)(炉内酸素濃度の確認)、安全教育 | 安全管理(マニュアル)(カバーの点検) 安全教育(切断作業の手順や注意事項の徹底) |

| 想定リスク-8 | 想定リスク-9 | 想定リスク-10 | 想定リスク-11 | 想定リスク-12 | 想定リスク-13 | 想定リスク-14 | 想定リスク-15 | 想定リスク-16 |
|--------------------------------------|---------------------------------|--|--------------------------|----------------------|--|--|----------------------|-----------------------------|
| インゴット切断 重量物取扱いにより腰痛になる。落下により負傷する。 | 圧延・鍛造 熱せられたインゴットへの接触により火傷する。 | 圧延・鍛造 圧延機へ巻き込まれる。 | 圧延・鍛造 重量物取扱いにより腰痛になる。 | 圧延・鍛造 落下による負傷する。 | 圧延・鍛造 重量物の運搬時の予期せぬ移動や落下により挟まれる。 | 粉末製造 設備の回転物へ巻き込まれる。 | 成型 重量物運搬による腰痛になる。 | 熱処理・焼結 熱い焼結体への接触により火傷する。 |
| インゴット切断 動作の反動・無理な動作 | 圧延・鍛造 高温物との接触 | 圧延・鍛造 はさまれ巻き込まれ | 圧延・鍛造 動作の反動・無理な動作 | 圧延・鍛造 飛来落下 | 圧延・鍛造 はさまれ巻き込まれ | 粉末製造 はさまれ巻き込まれ | 成型 動作の反動・無理な動作 | 熱処理・焼結 有害物との接触 |
| インゴット | 高温のインゴット | 圧延機 | インゴット | インゴット | 重量物 | 回転体 | 原料袋 | 加熱された焼結体 |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない | ルール順守しない 表示不足 | ルール順守しない 安全装置故障 | ルール順守しない | ルール順守しないハンド リングミス | 設備不具合、作業手順 | ルール順守しない カバーの破損 | ルール順守しない | 焼成体が熱いうちに触る |
| 安全教育(重量物取扱いの知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(圧延作業の手順の知識不足) | 安全教育(圧延作業の手順の知識不足) | 安全教育(圧延作業の手順の知識不足) | 安全管理(設備)(設備異常)、安全教育(咄嗟の判断) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) |
| 安全教育(インゴットの取扱い方法の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全管理(マニュアル)(安全装置の日常点検) 安全教育(圧延作業の手順の徹底) | 安全教育(圧延作業の手順の徹底) | 安全教育(圧延作業の手順の徹底) | 安全管理(マニュアル)(メンテナンス手順、日常点検) 安全教育(作業手順) | 安全管理(マニュアル)(安全カバーの破損の有無の点検) 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) |

| 想定リスク-17 | 想定リスク-18 | 想定リスク-19 | 想定リスク-20 | 想定リスク-21 | 想定リスク-22 | 想定リスク-23 | 想定リスク-24 | 想定リスク-25 |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--|---------------------------------|--------------------|--|
| 熱処理・焼結 焼結体の角への接触により裂傷する。 | 熱処理 窒素雰囲気炉等を大気解放したときに酸欠になる。 | 熱処理・焼結 焼結体や焼成板が割れて身体に当たり裂傷する。 | 焼結 酸素配管から酸素が大量に室内に漏れ出す。 | 焼結 炉体が崩落して人に当たる。 | 加工 回転している砥石へ巻き込まれる。 | 加工 加工体が割れたり、砥石を落下させて足の上に落ちる。 | 加工 加工体が割れて指を切る。 | 加工 自動旋盤における装置チャッキング不足によりターゲットが落下する。 |
| 熱処理・焼結 切れこすれ | 熱処理 有害物との接触 | 熱処理・焼結 切れこすれ | 焼成工程 有害物との接触 | 焼成工程 飛来落下 | 加工 はさまれ巻き込まれ | 加工 飛来落下 | 加工 切れこすれ | 加工 はさまれ巻き込まれ |
| 焼結体 | 不活性ガス | 焼結体、焼成板 | 高濃度酸素 | 耐熱煉瓦 | 砥石 | 加工体、砥石 | 加工体 | 重量物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 保護具の破れ | 酸欠 | 確認不足 | 配管の破損、高濃度酸素の吸い込み | 炉体(煉瓦)の劣化、落下 | ルール順守しない 安全装置故障 | 確認不足 | 確認不足 | ターゲットの落下 |
| 安全教育(保護具に対する知識不足) | 安全管理(マニュアル)(空気置換不足、酸素濃度計がない) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全管理(マニュアル)(酸素配管の保守メンテナンス不足) | 安全管理(マニュアル)(炉体のメンテ・監視不足) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全教育(作業手順に関する知識不足) | 安全管理(設備)(安全装置、インターロックなど) |
| 安全管理(保護具の点検の徹底) 安全教育(保護具のルールの徹底) | 安全管理(マニュアル)(センサーモニター、作業手順) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全管理(マニュアル)(日々の酸素使用量集計による異常の早期発見) | 安全管理(マニュアル)(炉体の目視確認および日々のメンテナンス) | 安全管理(マニュアル)(安全装置の点検の徹底) 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全管理(設備)(確認作業、安全装置) |

| 想定リスク-26 | 想定リスク-27 | 想定リスク-28 | 想定リスク-29 | 想定リスク-30 | 想定リスク-31 | 想定リスク-32 | 想定リスク-33 | 想定リスク-34 |
|---|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------|-------------------------------|----------------------------------|----------------------------|------------------------------------|---|
| ボンディング ボンダー(熔融金属)への接触により火傷する。 | ボンディング ボンダー(熔融金属)がはねて目に入る。 | ボンディング クレーンの吊り荷の落下により挟まれる。 | 仕上げ・検査・梱包 仕上げ治具で指を裂傷する。 | 仕上げ・検査・梱包 出荷箱の蓋が落ちてきて挟まれる。 | 仕上げ・検査・梱包 クレーンの吊り荷の落下により挟まれる。 | 仕上げ・検査・梱包 フォークリフトと接触する。 | 仕上げ・検査・梱包 ターゲット等の重量物運搬により腰痛になる。 | メンテナンス 重量のある機械部品を持ち上げることにより腰への負担が増す。 |
| ボンディング 高温物との接触 | ボンディング 有害物との接触 | ボンディング 飛来落下 | 仕上げ・検査・梱包 切れこすれ | 仕上げ・検査・梱包 飛来落下 | 仕上げ・検査・梱包 飛来落下 | 仕上げ・検査・梱包 激突 | 仕上げ・検査・梱包 動作の反動無理な動作 | メンテナンス 動作の反動・無理な動作 |
| 高温のIn(インジウム) | In(インジウム) | 吊り荷 | 鋭利な治具 | 蓋 | 吊り荷 | フォークリフト | 重量物 | 機械部品重量物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 保護手袋破れ | 保護メガネ未着用 | 吊り荷の下に手を入れる。吊り方の不具合。 | 保護具未着装 | 未固定の蓋が落下する | ルール順守しない | ルール順守しない | 無理な体勢、できると思った | 重量物の持ち上げ |
| 安全教育(保護具に関する知識不足) | 安全教育(保護具に対する知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全教育(重量物、自己管理、部下の体調) | 安全教育(重量物取扱いの知識不足) |
| 安全教育(作業手順の徹底) 安全管理(マニュアル) (保護手袋の点検) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順の徹底) | 安全教育(作業手順、危険予知) | 安全管理(マニュアル)(重量物の取り扱い ルールの徹底) 安全教育 |

| 想定リスク-35 | 想定リスク-36 | 想定リスク-37 |
|--------------------------------------|--|---|
| メンテナンス 炉体が崩落して人に当る。 | メンテナンス 熱い炉壁に接触して火傷する。 | メンテナンス 設備メンテ中に設備が動き出して挟まれる。 |
| 焼成工程 飛来落下 | 溶解・鋳造 高温低温物との接触 | 加工 はさまれ巻き込まれ |
| 耐熱煉瓦 | 高温 | 機械部品 |
| - | - | - |
| - | - | - |
| - | - | - |
| - | - | - |
| 炉体(煉瓦)の劣化、落下 | 降温物との接触 | 不注意、教育不足 |
| 安全管理(マニュアル) 炉体のメンテ・監視不足 | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全管理(マニュアル)(安全装置の故障) 安全教育(メンテの手順の知識不足) |
| 安全管理(マニュアル) (炉体の目視確認および日々のメンテナンス) | 安全管理(マニュアル)(炉が冷えてからのメンテの実施の徹底) 安全教育 | 安全管理(マニュアル)(安全装置の日常点検) 安全教育(メンテ方法) |

■別表8-2
ターゲット 労働災害事例

| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|--------|-----------------------|--------------------------|--|--|---|-----------------------|---|---|
| 発生年月日 | | 2005年2月3日 | 2005年3月7日 | 2005年3月12日 | 2005年6月26日 | 2006年2月2日 | 2006年3月7日 | 2006年4月5日 |
| 発災工程分類 | | ボンディング | 運搬 | 研削 | 梱包 | ボンディング | 梱包 | 圧延 |
| 事故発生概要 | | 加熱台の上に手を着いた。 | スクラップ材処分中に、スクラップを入れたドラム缶を秤量器に載せようと持ち上げた瞬間、腰痛を発症した。 | 停止操作後、惰性回転中ローター平面研削盤を手で止めようとし、割れた被加工物に当たり手を怪我した。 | カッターナイフ作業中、先端が材料の外側に飛び出し、材料を押えていた左手を罹災した。 | 吊っていた製品が落下して指を挟んだ。 | 梱包緩衝材切断作業中、定規からはみ出た指先にカッター刃が接触し、リ災した。 | 自動運転を解除せずトラブル対応を行い、動き出した自動機の一部で顔面を打撲した。 |
| 1 | 発災工程 | ボンディング | 廃棄 | 切削加工 | 加工仕上げ | ボンディング | 梱包 | 圧延 |
| 2 | 労働災害分類 | 高温低温物との接触 | 動作の反動 無理な動作 | 切れこすれ | 切れこすれ | 飛来落下 | 切れこすれ | 激突され |
| | 有害物質 | 加熱台 | ターゲット材スクラップ入りドラム缶 | 研削盤、パフ盤 | 手工具 | 製品(345kg) | 手工具 | その他の一般動力機械 |
| 3 | 負傷部位・程度 | 左手の掌 火傷 | 腰 | 右手指 | 左手指 | 左手第4指 | 左手指 | 切傷(縫合有り) |
| | 休業日数等 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| | 年齢 | 54歳 | 41歳 | 21歳 | 23歳 | 28歳 | 27歳 | 31歳 |
| | 経験年数(年) | 2.5年 | 10.5年 | 1.0年 | 0.3年 | 3.3年 | 1年 | 0.2年 |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | 関係会社 | 自社(従業員) | 協力会社 | 協力会社 | 関係会社 | 協力会社 | 協力会社 |
| 4 | 直接要因 | バックリングプレートに手をついた | ドラム缶の移動 | 被加工物の割れ | カッターナイフ誤操作 | 吊り荷の下に指を置いた | カッターナイフ誤操作 | 自動運転中装置との接触 |
| | 間接要因 | 安全教育(作業時に必要な保護具(手袋)の不徹底) | 安全管理(マニュアル)(取り扱う重量が重たすぎた) | 安全管理(設備)(安全装置が不十分) 安全教育(動作中の装置に咄嗟に手を入れた。) | 安全管理(マニュアル)(作業手順書がない作業) | 安全教育(作業手順の知識が不足していた。) | 安全管理(マニュアル)(保護具を未着装) 安全教育(危険予知の不足) | 安全管理(設備)(自動運転解除をしなかった) 安全教育(ルール無視) |
| 安全対策 | | 安全教育(社内ルールの徹底) | 安全管理(マニュアル)(重量制限を行った) 安全教育 | 安全管理(設備)(安全装置取付) 安全教育(厳守事項の徹底) | 安全管理(マニュアル)(作業手順書作成、保護具着用、類似作業の廃止) | 安全教育(作業手順の再教育) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用の徹底) 安全教育(作業方法、保護具) | 安全管理(設備)(防護柵設置) 安全教育(基本ルール) |

| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
|--|--|-------------------------------|--|---|-----------------------------------|---|--|--|
| 2006年5月19日 | 2006年7月18日 | 2006年8月18日 | 2006年9月18日 | 2007年7月26日 | 2007年10月1日 | 2008年2月1日 | 2008年9月26日 | 2008年10月23日 |
| 原料 洗浄機内にラック25kgをセットしようと持ち上げた際、ぎっくり腰を発症した。 | 仕上 製品磨き中にターゲット外周エッジ部に接触し、右手人差し指を切創した。 | 粉末製造 設備の蓋が頭に落下した。 | 切削加工 リフター上のローラーを使用して、70kgの荷を移動させようと押したところ、腰を捻り受傷した。 | 圧延 炉床搬送用ケーブルピット(幅210mm、深さ300mm)に右足を落とし、転倒した。 | 圧延 インゴットの圧延作業中に、右手人差し指先端を挟まれた。 | 切削加工 切粉選別中、からまった切粉を両手で引き千切ろうとして、右手指をり災した。 | メンテナンス 原料ホッパー架台上から床に降りようとした際、左足が滑り1.5m下に転落した。 | 梱包 カッターナイフを使用して、結束したPPバンドを切断しようとして、左大腿部をり災した。 |
| 原料(洗浄) 動作の反動無理な動作 | 仕上 切れこすれ | 粉末製造 飛来落下 | 切削加工 動作の反動無理な動作 | 圧延 転倒 | 圧延 はさまれ巻き込まれ | 切削加工 切れこすれ | 原料 墜落転落 | 梱包 切れこすれ |
| 荷姿のもの | ターゲット外周エッジ部 | 蓋(9.6kg) | 荷姿のもの | 作業床、歩み板 | 圧延機 | 金属材料 | 建築物、構築物 | 手工具 |
| 腰・ぎっくり腰 | 右手人差し指 | 後頭部挫創 | 腰・ぎっくり腰 | 骨折・ひび | 右手人差し指 | 右手指 | 打撲 | 大腿部切傷(縫合有り) |
| 不休 19歳 1.1年 協力会社 | 不休 42歳 1.6年 自社(従業員) | 不休 24歳 2.3年 関係会社 | 4日以上 25歳 2.7年 協力会社 | 不休 32歳 0.1年 協力会社 | 不休 29歳 4.4年 契約社員 | 不休 40歳 1年 関係会社 | 不休 23歳 0.3年 関係会社 | 4日以上 20歳 0.9年 関係会社 |
| 重量物25kgの運搬 | ターゲット外周エッジ部に接触 | 横向きの蓋が手を放すと落下する構造だった | 無理な姿勢での作業繰り返し | 作業中の転倒 | 圧延機台とインゴットの間挟まれ | 切粉との接触 | 床へ降りる際に足が滑る | ルール違反のカッター作業 |
| 安全管理(マニュアル)(狭い作業場所での持ち上げ作業で、無理な動作になった。) | 安全管理(設備)(回転物に直接手で作業を行った) | 安全管理(設備)(設備構造(落下し易い)に対する認識不足) | 安全管理(設備)(ローラー回転が不十分) | 安全教育(経験不足、足元にピットあり) | 安全管理(設備)(直接手で持って作業を行った) | 安全管理(マニュアル)(耐切創手袋保護具性能が不十分) | 安全教育(装置へ足をかけた(不安全行動)) | 安全管理(マニュアル)(PPバンド切断は初めての作業だった) |
| 安全管理(設備)(レイアウト変更やリフター改造)安全教育(作業方法) | 安全管理(設備)(治具の作成)、安全教育 | 安全管理(設備)(蓋に蝶番を付けて落下しない構造とした) | 安全管理(マニュアル)(ローラーのメンテ、作業動作変更)安全教育(危険感受性) | 安全管理(マニュアル)(作業手順変更、指導要領作成)安全教育 | 安全管理(設備)(治具の作成)安全教育 | 安全管理(マニュアル)(金属片でも切れない鎖手袋やペンチ併用)安全教育(注意事項、保護具) | 安全管理(マニュアル)(適正な脚立、足場利用)安全教育(昇降方法) | 安全管理(マニュアル)(不要なナイフを回収し、ナイフ利用場所を限定)安全教育(カッター作業) |

| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|---|--|--|--|---|---|--|--|--|
| 2009年7月11日 | 2009年7月30日 | 2009年11月4日 | 2009年12月14日 | 2010年6月24日 | 2010年8月27日 | 2010年12月22日 | 2011年2月5日 | 2011年3月29日 |
| メンテナンス チタン板(約25kg)を二人掛り で持上げた際、左肩を り災した。 | メンテナンス 効ネとハンマーで砕いた際 にアルカスラグが飛散し長 靴内に入り、左足首をり 災した。 | 成型 成型機内の粉を均そうと 左手を中に入れ、動作部 に左手指を挟まれた。 | 梱包 プラスチック段ボールの 解体作業中に、カッター ナイフで左手親指を切創 した。 | 検査 台車を後退させた際、圧 延機とAI板との間に指を はさまれた。 | 原料 両手で反転させたイン ゴット(約30kg)と金敷との 間に手をはさまれた。 | 検査・洗浄 ターゲットに付着した洗浄 剤の拭取り作業中に、有 機溶剤(アセトン)が飛散 し、左眼を薬症した。 | 原料 硝酸(60%)を入れたパケッ 運搬中に転倒し、撥ねた 硝酸が目には掛かった。 | メンテナンス 配管工事中、付属してい た短管(約10kg)が外れ て落下し、下にいた罹災 者に当たった。 |
| メンテ 動作の反動無理な動作 | メンテ 有害物との接触 | 成型 はさまれ巻き込まれ | 廃棄 切れこすれ | 検査 激突 | 原料 飛来落下 | 洗浄 有害物との接触 | 原料(電解) 有害物との接触 | メンテ 飛来落下 |
| 金属材料 | 有害物 | プレス機械 | カッターナイフ | 人力運搬機 | 金属材料 | 有機溶剤(アセトン) | 有害物 | 機械装置 |
| 左肩捻挫 | 左足首薬傷 | 左手指 | 左手親指 | 右手指末端断裂 | 左手指骨折 | 左眼 | 両目薬傷 | 右頬切創 |
| 不 29歳 | 不 35歳 | 不 29歳 | 不 29歳 | 4日未 50歳 | 不 25歳 | 不 36歳 | 不 40歳 | 不 57歳 |
| 0.1年 | 0.1年 | 3年 | 0.3年 | 3.8年 | 0.2年 | 0.3年 | 0.8年 | 32年 |
| 関係会社 | 関係会社 | 関係会社 | 自社(パート) | 関係会社 | 協力会社 | 契約社員 | 関係会社 | 協力会社 |
| 徐々に体調悪化 | スラグ粉碎時の薬物飛 散 | 可動部に手を入れて挟ま れる | カッターナイフ | 台車と設備間に手を挟ま れる | 金属材に挟まれる | 有機溶剤(アセトン)の飛 散 | パケツを持ったまま転倒 し、薬液と接触 | ダクト短管の落下 |
| 安全管理(マニュアル)(チ タン板が持ちづらい) | 安全管理(マニュアル)(作 業場所や保護具が未整 備) | 安全管理(設備)(自動装 置に手を入れる作業が あった) | 安全管理(設備)(慌てて 作業を行った) | 安全管理(設備)(取手が ない、スペースがない) | 安全教育(作業経験不足 (初めての作業)だった) 安全管理(マニュアル)(標 準書が未整備) | 安全管理(マニュアル) (保護メガネの未着装) | 安全教育(漏えい異常時 の手順を間違えた) | 安全管理(マニュアル)(ダ クト付属品があることを 確認していなかった) |
| 安全管理(マニュアル)(板 作業方法を変更) 安全教育(変更後の手順) | 安全管理(マニュアル)(作 業方法の変更し、マン ual化) 安全教育(危険予知(KY) 訓練など) | 安全管理(設備)(安全装 置取付) 安全管理(マニュアル)(作 業手順を改訂) 安全教育(手順) | 安全管理(設備)(治具の 作成)、安全教育 | 安全管理(設備)(レイアウ ト変更) 安全教育(再教育) | 安全管理(マニュアル)(作 業手順変更) 安全教育(再教育) | 安全管理(マニュアル) (保護メガネの着装) 安全教育 | 安全管理(設備)(設備か らの漏洩防止の改造) 安全教育(異常処置) | 安全管理(マニ ual)(KYチェックリスト作成) 安全教育(禁止事項) |

| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
|--|---------------------------------|---|-------------------------------|---|--|--|--|--|
| 2012年1月9日 | 2012年6月6日 | 2012年7月8日 | 2012年8月8日 | 2013年5月23日 | 2013年8月29日 | 2013年9月7日 | 2013年10月21日 | 2013年12月25日 |
| 圧延 小型圧延機に設置しようとした板(約25kg)が跳ね上がり、手の上に落下した。 | 成型 成形体の解体作業時に原材料が飛散し左腕を切創した。 | 粉末製造 設備へ指が巻き込まれた。 | 成型 成形治具移動時に右手小指を挟まれ切創した。 | 溶解 坩堝にインゴットをセット中、入口付近にあったセット済みのインゴットに刺さり、右手第四指を切創した。 | 機械加工 ターゲット(約50kg)を二人で降ろす際、同僚が早く手を放し、り災者一人で支え罹災した。 | 検査 検査のため樹脂製通い箱を台車から台車に移動した直後、腰痛を発症した。 | 機械加工 二人掛りで箱(約60kg)を持ち上げた運搬により腰痛を発症した。 | 設備点検 高所作業車の通路(高さ約1m)を歩行中、足を踏み外して墜落した。 |
| 圧延 激突され | 取出し 飛来落下 | 粉末製造 はさまれ巻き込まれ | 運搬 はさまれ巻き込まれ | 溶解 切れこすれ | 切削加工 動作の反動無理な動作 | 検査 動作の反動 無理な動作 | 切削加工 動作の反動無理な動作 | 高所作業 墜落転落 |
| その他の金属加工用機械 左手指骨折 | 原材料 左腕 | 設備 指骨折 | 治具 右手小指 | インゴット 右手第四指 | 荷姿のもの 腰・ぎっくり腰 | 樹脂製通い箱 背部筋炎 | 荷姿のもの 急性腰痛症 | 高所作業車 左大腿骨骨折 |
| 不休 25歳 0.4年 関係会社 | 不休 38歳 13年 自社(従業員) | 不休 35歳 2.6年 自社(従業員) | 不休 37歳 19.3年 自社(従業員) | 不休 37歳 0.1年 自社(従業員) | 不休 28歳 3.4年 関係会社 | 不休 31歳 3.8年 自社(パート) | 不休 44歳 5.4年 関係会社 | 4日以上 39歳 15年 協力会社 |
| インゴット跳ね上がりによる挟まれ | 原材料破損による破片の飛散 | スイッチを切らずに設備に詰まったものを除去した | 挟まれ | インゴットの尖り | 重量物運搬で一人に荷重かかる | 樹脂製通い箱の複数回の移動 | 人力(二人)で重量物作業を実施 | 高所から足元を確認せず落下 |
| 安全管理(設備)(保護用の治具がなかった) | 安全管理(設備)(飛散危険に対する注意不足) | 安全教育(作業手順の知識不足) | 安全管理(設備)(治具の不備) | 安全管理(マニュアル)(保護具の不備) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 安全管理(マニュアル)(作業姿勢の不備) | 安全管理(マニュアル)(腰痛ベルトを未着装) | 安全教育(高所(1m)の危険性指導不足) |
| 安全管理(設備)(保護用治具作成) 安全教育(危険予知、再教育実施) | 安全管理(設備)(治具の改造) | 安全管理(設備)(設備カバーに安全装置設置) 安全教育(作業手順の徹底) | 安全管理(設備)(治具の改造) | 安全管理(マニュアル)(耐切創手袋を使用) | 安全管理(マニュアル)(搬送設備利用) 安全教育(習熟度チェック実施) | 安全管理(マニュアル)(取り扱い重量の制限と作業スペースの確保) 安全教育 | 安全管理(マニュアル)(保護具着用) 安全教育(作業動作) | 安全教育(指差し呼称、始業前ミーティング、KYなど教育を実施) |

| 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 |
|--|----------------------------------|--|---|---|---|--|--|--|
| 2014年7月8日 | 2014年8月28日 | 2014年11月8日 | 2015年2月4日 | 2015年8月25日 | 2016年1月17日 | 2016年10月11日 | 2016年10月23日 | 2017年10月13日 |
| 機械加工 旋盤加工中、切削された切粉を巻き込んで旋回し、左手甲を罹災した。 | 粉末製造 掃除中に頭を設備にぶつけた。 | メンテナンス クレーンで吊ったタンクがパラントを崩して横転し、左足に激突した。 | メンテナンス 塩ビ製ダクト切断中に、ダクトから外れたカッターが右足ひざ下に当たった。 | 機械加工 旋盤加工中に発生した切粉がチャック爪に絡んで旋回し、リ災者右手を切創した。 | 成型 粉体成型機の粉マス内の粉を均そうと左手を粉マス内に入れ、粉マス下部と金型間に手を挟まれた。 | 切削 研削盤でワーク固定治具の補修作業中、治具表面の粉じんを除去しようとした際、惰性で回転中の砥石に左手指が接触した。 | 検査 反り測定器で共同作業者が手動で移動テーブルを引き出した際、リ災者の左手中指が、移動テーブルとストッパーの間にはさまれた。 | 切削 切削加工設備に製品材料を取り付ける作業の中で、フランジ部をプラスチックハンマーで叩こうとした際に左手を叩いた。保護具は装着していた。 |
| 切削加工 切れこすれ | 粉末製造 激突 | メンテ 激突され | メンテ 切れこすれ | 切削加工 切れこすれ | 成型 はさまれ | 切削 切れ、こすれ | 検査 はさまれ、巻き込まれ | 切削 はさまれ、巻き込まれ |
| 旋盤 | 設備の角 | クレーン | 手工具 | 旋盤 | 王水 | なし | なし | なし |
| 左手甲 | 額切創 | 左足踵骨折 | 右下腿内足 | 右手 | 右手指切創(5針縫合) | 手指切創(縫合あり) | 骨折ひび | 指骨折 |
| 4日未満 | 不休 | 4日以上 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 35歳 | 31歳 | 34歳 | 40歳 | 31歳 | 31歳 | 45歳 | 33歳 | 34歳 |
| 17.3年 | 6.3年 | 2.0年 | 6.5年 | 6.0年 | 0.4年 | 3.5年 | 0年 | 15年 |
| 協力会社 | 関係会社 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 協力会社 | 関係会社 | 協力会社 | 関係会社 | 関係会社 |
| 切削時に切粉が旋回 | 設備の上部に手を伸ばして拭こうとし、設備の突起部にぶつけた | スラリータンクが転倒し、激突 | カッターでダクト切断時に誤操作 | 切削切子が旋回 | 装置稼働部に挟まれた | 回転している砥石に指が接触 | テーブルとストッパーに指を挟まれる | プラスチックハンマーで誤って指を叩いた。 |
| 安全管理(設備)(切粉がチャック爪部に絡んだ) | 安全管理(設備)(帽子着用でヘルメット着用でなかった) | 安全管理(マニュアル)(適切な吊位置がなかった) | 安全教育(カッター災害への安全意识緩み) | 安全管理(マニュアル)(切粉がチャック爪に絡む) | 安全教育(ルール違反)安全管理(設備)(手が入らないよう安全カバー設置、エリアセンサーの設置) | 安全管理(設備)(回転体に手が入る構造になっていた)安全教育(非定常作業を実施、危険予知不足) | 安全管理(設備)(回転体に手が入る構造になっていた)安全管理(マニュアル)(リスク抽出の不足) | 安全管理(設備)対象作業の叩く範囲が狭く、作業がやりずらかった。 |
| 安全管理(設備)(チャックカバーを設置)安全教育(切粉処理方法) | 安全管理(設備)(突起部へクッション材の取付とヘルメットの導入) | 安全管理(マニュアル)(作業手順をマニュアル化)安全教育(類似災害) | 安全管理(マニュアル)(カッター使用作業、保管数管理を徹底)安全教育(カッター取扱い方法) | 安全管理(マニュアル)(作業方法を変更)安全教育(切粉処理方法) | 安全管理(設備)(安全装置設置)安全教育(ルール順守) | 安全管理(設備)(安全カバーの取り付け)安全教育(ルール順守、危険予知) | 安全管理(設備)(安全カバー取り付け)安全管理(マニュアル)(リスクアセス見直し) | 安全管理(設備)治具の改良を実施 |

| |
|--|
| 44 |
| 2019年10月30日 |
| 原料 電析金属の回収作業において、ハンマーで電析物をはがそうとして、抑えている左手を誤ってハンマーで打撃した。耐切創手袋など保護具は装着していた。 |
| 原料 はさまれ巻き込まれ |
| なし |
| 指骨折 |
| 不休 |
| 29歳 |
| 2年 |
| 関係会社 |
| 金属ハンバーで誤って指を叩いた |
| 安全管理(マニュアル)作業方法が不適切で、安全な手順を定めていなかった。 |
| 安全管理(マニュアル)治具や手順を変更し、マニュアル化した |

■別表9
化合物半導体部会 想定保安事故

| No. | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 |
|-----|---------------------------|--|--|---|
| | 発生年月日 | — | — | — |
| | 発災工程分類 | 合成 | 単結晶育成 | メンテナンス |
| | 事故発生概要 | 高圧容器破損による、高温物質の容器外への噴出や燐による火災の発生 | 高圧容器破損による、高温物質の容器外への噴出や燐による火災の発生 | 排気配管や掃除機へ燐を含む粉塵が堆積し、メンテ作業中に火災が発生 |
| 1 | 発災工程 プロセス条件 | 合成 容器の内部は高温高圧 | 単結晶育成 容器の内部は高温高圧 | メンテナンス 清掃等により粉塵に着火 |
| 2 | 物質 潜在エネルギー 危険性 | 燐、高温高圧 燐の酸化 | 燐、高温高圧 燐の酸化 | 燐を含む粉じん 燐の酸化 |
| 3 | 保安事故分類 | 火災 | 火災 | 火災 |
| 4 | 人的被害 | — | — | — |
| | 物的被害 | — | — | — |
| | 自社(従業員、パート) ／派遣／協力会社の別 | — | — | — |
| 5 | 直接要因 | 容器や部品の経年劣化 温度制御の暴走 冷却水断水 | 容器や部品の経年劣化 温度制御の暴走 冷却水断水 | 粉じんの堆積 |
| | 間接要因 | 安全管理(マニュアル) 炉体、部品のメンテナンス や定期交換、定期点検な どの不備 | 安全管理(マニュアル) 炉体、部品のメンテナンス や定期交換、定期点検な どの不備 | 安全管理(マニュアル) メンテ間隔が長い、空気の 乾燥 |
| | 安全対策 | 安全管理(マニュアル)(メン テ時の点検表、熱電対や 冷却水量の管理確認、法 令点検) | 安全管理(マニュアル)(メン テ時の点検表、熱電対や 冷却水量の管理確認、法 令点検) | 安全管理(マニュアル)(メン テナンスの頻度、発火防止 用に冷却水を活用) |

■別表10-1
化合物半導体部会 想定労働災害

| 想定リスク番号 | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 想定リスク-4 | 想定リスク-5 |
|---------|-----------------------|-----------------------------------|--|----------------------------------|---|---|
| 発災工程分類 | | 原料、洗浄 | 結晶育成 | 結晶育成 | 結晶加工 | 結晶加工 |
| 事故発生概要 | | 洗浄槽から薬液(酸やアルカリ、有機溶剤)が飛散し、薬液と接触する。 | 高圧容器部品が破損または脱離して飛翔する | 装置作業や清掃中に炉壁に付着した燐などの可燃性物質が燃え出す | 回転体への接触 | 研磨した粉塵を吸引する |
| 1 | 発災工程 | 原料、洗浄 | 結晶育成 | 結晶育成 | 結晶加工 | 結晶加工 |
| 2 | 労働災害分類 | 有害物との接触 | 激突 | 有害物との接触 | 切れこすれ | 切れこすれ |
| | 有害物質 | 酸やアルカリの薬液 | 部品 | 燐などの有害物 | 鋭利な刃物 | インジウム粉等の有害物質 |
| 3 | 負傷部位・程度 | - | - | - | - | - |
| | 休業日数等 | - | - | - | - | - |
| | 年齢 | - | - | - | - | - |
| | 経験年数(年) | - | - | - | - | - |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | - | - | - | - | - |
| 4 | 直接要因 | ルール順守しない | 装置部品の劣化、装置組み立て不良 | 製造条件(燐飛散量)が適切でない、温度環境の不備 | 破損、ルール順守しない、非定常作業など | 有害な粉を吸ってしまう |
| | 間接要因 | 安全教育(薬品取り扱いのルール、保護具着用) | 安全管理(マニュアル)(作業手順に不備、マニュアルがない)。安全教育(作業手順不備) | 安全管理(マニュアル)(ルール化)、安全教育(保護具未着装) | 安全管理(マニュアル)(作業手順に不備、マニュアルがない)。安全教育(作業手順不備、保護具未着装) | 安全管理(マニュアル)(作業手順に不備)。安全教育(保護具未着装) |
| 安全対策 | | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順) | 安全管理(マニュアル)(作業手順)、安全教育(作業場所) | 安全管理(マニュアル)(作業手順)、安全教育(保護具着装の徹底) | 安全管理(マニュアル)(作業手順と安全対策のルール化)。安全教育(作業手順の徹底、保護具) | 安全管理(マニュアル)(作業手順と安全対策のルール化)。安全教育(作業手順の徹底、保護具) |

■別表10-2
化合物半導体部会 労働災害
事例

| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|--------|-----------------------|--|---|--|---|--|--|---|
| 発生年月日 | | 2005年7月14日 | 2006年7月19日 | 2006年11月11日 | 2009年6月15日 | 2010年12月27日 | 2016年3月4日 | 2018年4月3日 |
| 発災工程分類 | | 単結晶成長 | 原料 | メンテナンス | 検査 | 梱包 | 面取り | ポリッシング |
| 事故発生概要 | | るつぼを傾けてインゴットを抜いたところ、押さえていた手のひらにインゴットテール面の突起部が刺さり、裂傷を負った。 | ドラフトチャンパ内で王水の入ったパイレックス容器を落とし、割れたパイレックス容器破片で左記部位を切創。 | 装置裏側から正面へ出ようと研削液タンクを跨いだ際、死角になっていた突起物に足が乗り、滑って足首を捻った。 | エッチング溶融液に接触した右手の耐熱手袋を左手で脱がせる際、耐熱手袋に付着していた溶融液が左手のラボメント手袋を溶かし、左手の指を薬傷、火傷した。 | 段ボール箱組立てのため箱底部を手で押した際、段ボールの蓋部分(角)が右眼に入りり災した。 | 研削加工中、割れたウェハを取り外そうとしたところ、装置が動き出して割れたウェハが回転し、鋭利な破断面で指に切創を負った。 | ポリッシングプレートの表面拭き取り作業において、表面の汚れを見易くするため、回転台(重量物)を持ち上げ移動させる際、回転台を落下させ、右手に接触。 |
| 1 | 発災工程 | 単結晶成長 | 洗浄 | 円筒研削 | 検査 | 梱包 | 面取り | ポリッシング |
| 2 | 労働災害分類 | 落下/激突され/切れ | 切れこすれ | 無理な動作 | 高温・低温物との接触/有害物質との接触 | 激突 | 切れこすれ | 激突 |
| | 有害物質 | インゴット | 王水 | 研削液タンク | KOH溶融液 | なし | ウェハ切片 | 治具 |
| 3 | 負傷部位・程度 | 左手人差指根本腱断裂 | 右手指切創(縫合あり) | 左足首捻挫 | 左手親指、人差指火傷(2度) | 右眼球打撲 | 右手人差指切創(2針縫合) | 右手小指中骨骨折 |
| | 休業日数等 | 重傷 | 不休 | 重傷 | 不休 | 細微傷 | 不休 | 48日 |
| | 年齢 | 27歳 | 31歳 | 30歳 | 23歳 | 22歳 | 32歳 | 40歳 |
| | 経験年数(年) | 1年5ヶ月 | 13.2年 | 2年7ヶ月 | 4年2ヶ月 | 2.0年 | 9年 | 2ヶ月 |
| | 自社(従業員、パート)/派遣/協力会社の別 | 自社 | 自社 | 派遣 | 自社 | 関係会社 | 自社 | 派遣 |
| 4 | 直接要因 | 重量物の取り扱い | ガラス容器を落とした | 安全な通路の確保 | 高温物、有害物質との接触 | 眼をぶつけた | ウェハ切片との接触 | 重量物の取り扱い |
| | 間接要因 | 安全管理(マニュアル)(詳細手順の規定なし) 安全管理(設備)(適切な治具の準備不足) | 安全教育(薬品取り扱いのルール、保護具着用) | 安全管理(設備)(安全な通路の不足) 安全教育(危険予知の不足) | 安全管理(マニュアル)(作業時に必要な保護具の不徹底) 安全教育(危険予知の不足) | 安全教育(作業に慣れていなかった、危険予知不足) | 安全管理(設備)(安全装置が不十分) 安全管理(マニュアル)(自動運転停止の確認不足) | 安全管理(設備)(安全配慮が不十分) 安全管理(教育)(重量物取扱いのKY不足) |
| 安全対策 | | 安全管理(マニュアル)(安全にインゴットを取り出す詳細手順の規定) 安全管理(設備)(適切な治具の準備) | 安全教育(保護具着装の徹底、危険予知) | 安全管理(設備)(装置裏側への安全な通路の確保) 安全教育(跨ぐ、踏む、乗り越える危険について再教育) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用の詳細規定) 安全教育(保護具の重要性の再教育) | 安全教育(危険予知) | 安全管理(設備)(安全装置設置) 安全管理(マニュアル)(ウェハ破損時の対処手順の詳細規定) | 安全管理(設備)(人に優しい設備への改良) 安全管理(教育)(重量物に対するKY強化) |

| |
|--|
| 8 |
| 2019年12月22日 |
| ラッピング |
| エッチング後のウェハの乾燥(水分置換)に使い終わった廃アセトン樹脂容器からSUS製容器に移そうとした際、静電気でアセトン蒸気に着火し、作業者が左手甲に火傷を負った。 |
| ラッピング後のエッチング |
| 火傷 |
| 有機溶剤 |
| 右手甲 火傷(皮膚の発赤) |
| 不休 |
| 25歳 |
| 1.7年 |
| 派遣 |
| 静電気 |
| 安全管理(設備)(安全配慮が不十分) 安全管理(マニュアル)(作業環境、作業衣の規定不足) |
| 安全管理(設備)(静電気対策の強化) 安全管理(マニュアル)(作業環境、作業衣の詳細規定) |

■別表11
ベリリウム 保安事故事例

| No. | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 1 |
|--------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------|---|
| 発生年月日 | | — | — | — | 2016年1月24日 |
| 発災工程分類 | | 溶解 | 鑄造 | 展伸材表面処理 | その他(廃棄物処理) |
| 事故発生概要 | | 冷却水が漏れ溶湯に触れ水蒸気爆発する | 溶湯が飛散し周囲の可燃物に燃え移り火災を生じる | 酸洗槽が破損し酸が漏出 | ドラム缶で可燃物を焼却中に床上の別の可燃物に燃え移り上部にあった塩ビ製ホースが燃えた。 |
| 1 | 発災工程 | 溶解 | 鑄造 | 展伸材表面処理 | その他(廃棄物処理) |
| | プロセス条件 | 溶湯と水分の接触 | 溶湯と可燃物の接触 | 酸の漏出 | ドラム缶内燃焼 |
| 2 | 物質 | ベリリウム銅合金(液体) | ベリリウム銅合金(液体) | 硫酸 | 可燃物 |
| | 潜在エネルギー危険性 | 水蒸気爆発 | 燃焼 | 化学反応 | 燃焼 |
| 3 | 保安事故分類 | 爆発 | 火災 | 化学物質漏出 | 火災 |
| 4 | 人的被害 | 爆圧による転倒、激突 | やけど | 酸によるやけど | なし |
| | 物的被害 | 溶解炉設備損壊 | 設備、建物の焼失 | 酸洗槽周囲の酸による腐食 | あり |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 5 | 直接要因 | 冷却水の漏れ | 溶湯の飛散 | 酸洗槽の破損 | 監視不足による燃え移り |
| | 間接要因 | 安全管理(設備) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(設備) | 安全管理(マニュアル) |
| | | 冷却水システムのメンテナンス、定期点検不備 | 鑄造時に可燃物を周囲に放置 | 酸洗槽のメンテナンス、定期点検不備 | 局所排気フード内で焼却作業を行っていた(ルール違反) |
| 安全対策 | | 安全管理(設備)(メンテナンス) | 安全管理(マニュアル) | 安全管理(設備)(メンテナンス) | 安全管理(当該作業の禁止) |

■別表12-1
ベリリウム 想定労働災害

| 想定リスク番号 | | 想定リスク-1 | 想定リスク-2 | 想定リスク-3 | 想定リスク-4 | 想定リスク-5 | 想定リスク-6 | 想定リスク-7 |
|---------|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------|----------------|-----------------------------------|----------------|------------------------|----------------|
| 発災工程分類 | | 煨焼 | 煨焼 | アーク還元 | アーク還元 | 鑄造(母合金) | 鑄造(母合金) | 溶解 |
| 事故発生概要 | | 炉体の高温部に手が触れやけどを負う | 回転炉体に巻込まれる | 冷却水が漏れ水蒸気爆発する | 炉体高温部に触れやけどを負う | 冷却水が漏れ水蒸気爆発する | 溶湯にふれやけどする | 冷却水が漏れ水蒸気爆発する |
| 1 | 発災工程 | 煨焼 | 煨焼 | アーク還元 | アーク還元 | 鑄造(母合金) | 鑄造(母合金) | 溶解 |
| 2 | 労働災害分類 | 高温物との接触 | はさまれ・巻き込まれ | 爆発 | 高温物との接触 | 爆発 | 高温物との接触 | 爆発 |
| | 有害物質 | 高温物との接触 | 回転物 | 溶湯と水分 | 高温物との接触 | 溶湯と水分 | 高温物との接触 | 溶湯と水分 |
| 3 | 負傷部位・程度 | - | | - | - | - | - | - |
| | 休業日数等 | - | | - | - | - | - | - |
| | 年齢 | - | | - | - | - | - | - |
| | 経験年数(年) | - | | - | - | - | - | - |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | - | | - | - | - | - | - |
| 4 | 直接要因 | ルール順守しない | ルール順守しない | 冷却水システムの劣化 | ルール順守しない | 冷却水システムの劣化 | ルール順守しない | 冷却水システムの劣化 |
| | 間接要因 | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全管理(メンテナンス不備) | 安全教育(保護具着用) | 安全管理(メンテナンス不備) | 安全教育(保護具着用) | 安全管理(メンテナンス不備) |
| 安全対策 | | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全管理(メンテナンス) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全管理(メンテナンス) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順) | 安全管理(メンテナンス) |

| 想定リスク-8 | 想定リスク-9 | 想定リスク-10 | 想定リスク-11 | 想定リスク-12 | 想定リスク-13 | 想定リスク-14 | 想定リスク-15 |
|-----------------------------------|------------------------------|---------------------|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|---|---|
| 溶解 炉体高温部に触れやけどを負う | 溶解 移動してきたスラグ処理機と設備の間に挟まれる | 鋳造 冷却水が漏れ水蒸気爆発する | 鋳造 設備高温部に触れやけどを負う | 鋳造 移動してきた鋳造機に挟まれる | 展伸材熱間圧延 設備高温部に触れやけどを負う | 展伸材熱間圧延 移動してきた鋳塊搬送機に挟まれる | 展伸材熱間圧延 回転する圧延ロールに巻込まれる |
| 溶解 高温物との接触 | 溶解 はさまれ・巻き込まれ | 鋳造 爆発 | 鋳造 高温物との接触 | 鋳造 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材熱間圧延 高温物との接触 | 展伸材熱間圧延 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材熱間圧延 はさまれ・巻き込まれ |
| 高温物との接触 | 可動物 | 溶湯と水分 | 高温物との接触 | 可動物 | 高温物との接触 | 可動物 | 回転物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない | ルール順守しない | 冷却水システムの劣化 | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない |
| 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全管理(メンテナンス不備) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(稼働設備に接触) |
| 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全管理(メンテナンス) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置、インターロック設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置、インターロック設置) |

| 想定リスク-16 | 想定リスク-17 | 想定リスク-18 | 想定リスク-19 | 想定リスク-20 | 想定リスク-21 | 想定リスク-22 | 想定リスク-23 |
|------------------------------------|-------------------------------------|---|------------------------------------|---|------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 展伸材冷間圧延 圧延された高温の製品に 触れやけどを負う | 展伸材冷間圧延 移動してきたクレーンと設 備の間に挟まれる | 展伸材冷間圧延 回転する圧延ロールに巻 込まれる | 展伸材冷間圧延 圧延された製品の鋭利な エッジで手を切る | 展伸材熱処理 設備高温部に触れやけ どを負う | 展伸材熱処理 移動してきたクレーンと設 備の間に挟まれる | 展伸材熱処理 回転するロールに巻込ま れる | 展伸材熱処理 製品の鋭利なエッジで手 を切る |
| 展伸材冷間圧延 高温物との接触 | 展伸材冷間圧延 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材冷間圧延 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材冷間圧延 切れ・こすれ | 展伸材熱処理 高温物との接触 | 展伸材熱処理 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材熱処理 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材熱処理 切れ・こすれ |
| 圧延され熱せられたコイ ル | 可動物 | 回転物 | 鋭利な金属材料 | 高温物との接触 | 可動物 | 回転物 | 鋭利な金属材料 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない(保護 具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない(保護 具未着用、確認不足) |
| 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(保護具着用、 作業手順) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(保護具着用、 作業手順) |
| 安全教育(必要な保護具 着装的徹底、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順)、安 全管理(保護柵設置、イ ンターロック設置) | 安全教育(必要な保護具 着装的徹底、作業手順の 徹底) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順)、安 全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順)、安 全管理(保護柵設置、イ ンターロック設置) | 安全教育(必要な保護具 着装的徹底、作業手順の 徹底) |

| 想定リスク-24 | 想定リスク-25 | 想定リスク-26 | 想定リスク-27 | 想定リスク-28 | 想定リスク-29 | 想定リスク-30 | 想定リスク-31 |
|-----------------------------|---------------------------------|---|---------------------------|---------------------------|---|---------------------------|---|
| 展伸材表面処理 酸が飛散し目に入り目をやけどする | 展伸材表面処理 移動してきたクレーンと設備の間に挟まれる | 展伸材表面処理 回転するロールに巻込まれる | 展伸材表面処理 製品の鋭利なエッジで手を切る | 展伸材検査 酸が飛散し目に入り目をやけどする | 展伸材検査 回転するロールに巻込まれる | 展伸材検査 製品の鋭利なエッジで手を切る | 展伸材スリッター 回転するロールに巻込まれる |
| 展伸材表面処理 有害物との接触 | 展伸材表面処理 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材表面処理 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材表面処理 切れ・こすれ | 展伸材検査 有害物との接触 | 展伸材検査 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材検査 切れ・こすれ | 展伸材スリッター はさまれ・巻き込まれ |
| 劇薬品 | 可動物 | 回転物 | 鋭利な金属材料 | 劇薬品 | 回転物 | 鋭利な金属材料 | 回転物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない |
| 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) |
| 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置、インターロック設置) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置、インターロック設置) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置、インターロック設置) |

| 想定リスク-32 | 想定リスク-33 | 想定リスク-34 | 想定リスク-35 | 想定リスク-36 | 想定リスク-37 | 想定リスク-38 | 想定リスク-39 |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---|------------------------------------|---|----------------------------------|--|
| 展伸材スリッター カッターの鋭利なエッジで 手を切る | 展伸材梱包、出荷 フォークリフトとトラックの 間に挟まれる | 展伸材梱包、出荷 製品の鋭利なエッジで手 を切る | 加工品熱間鍛造 設備高温部に触れやけ どを負う | 加工品熱間鍛造 移動してきたマニピュ レーターに挟まれる | 加工品熱処理 設備高温部に触れやけ どを負う | 加工品熱処理 移動してきたフォークリフ トに挟まれる | 加工品機械加工 移動してきたフォークリフ トと設備の間に挟まれる |
| 展伸材スリッター 切れ・こすれ | 展伸材梱包、出荷 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材梱包、出荷 切れ・こすれ | 加工品熱間鍛造 高温物との接触 | 加工品熱間鍛造 はさまれ・巻き込まれ | 加工品熱処理 高温物との接触 | 加工品熱処理 はさまれ・巻き込まれ | 加工品機械加工 はさまれ・巻き込まれ |
| 鋭利な金属材料 | 可動物 | 鋭利な金属材料 | 高温物との接触 | 可動物 | 高温物との接触 | 可動物 | 可動物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない(保護 具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(保護 具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない |
| 安全教育(保護具着用、 作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(保護具着用、 作業手順) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接 触) | 安全教育(稼働設備に接 触) |
| 安全教育(必要な保護具 装着の徹底、作業手順の 徹底) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具 装着の徹底、作業手順の 徹底) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順)、安 全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順)、安 全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接 触しない、作業手順) |

| 想定リスク-40 | 想定リスク-41 | 想定リスク-42 | 想定リスク-43 | 想定リスク-44 | 想定リスク-45 | 想定リスク-46 | 想定リスク-47 |
|-------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------------|----------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 加工品機械加工 設備の回転部に巻込まれる | 加工品機械加工 製品の鋭利なエッジで手を切る | 加工品検査 酸が飛散し目に入り目をやけどする | 加工品検査 製品の鋭利なエッジで手を切る | 加工品梱包、出荷 フォークリフトとトラックの間に挟まれる | 加工品梱包、出荷 製品の鋭利なエッジで手を切る | 金属ベリ機械加工 設備の扉で指を挟まれる | 金属ベリ機械加工 設備の回転部に巻込まれる |
| 加工品機械加工 はさまれ・巻き込まれ | 加工品機械加工 切れ・こすれ | 加工品検査 有害物との接触 | 加工品検査 切れ・こすれ | 加工品梱包、出荷 はさまれ・巻き込まれ | 加工品梱包、出荷 切れ・こすれ | 金属ベリ機械加工 はさまれ・巻き込まれ | 金属ベリ機械加工 はさまれ・巻き込まれ |
| 回転物 | 鋭利な金属材料 | 劇薬品 | 鋭利な金属材料 | 可動物 | 鋭利な金属材料 | 可動物 | 回転物 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない |
| 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(稼働設備に接触) |
| 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) |

| 想定リスク-48 | 想定リスク-49 | 想定リスク-50 | 想定リスク-51 | 想定リスク-52 | 想定リスク-53 | 想定リスク-54 | 想定リスク-55 |
|----------------------------|-----------------------------------|------------------------|------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|------------------------|---------------------------|
| 金属ベリ機械加工 製品の鋭利なエッジで手を切る | 金属ベリ熱間圧延 設備高温部に触れやけどを負う | 金属ベリ熱間圧延 加熱炉の扉に挟まれる | 金属ベリ熱間圧延 回転する圧延ロールに巻き込まれる | 金属ベリエッチング 酸が飛散し目に入り目をやけどする | 金属ベリエッチング 製品の鋭利なエッジで手を切る | 金属ベリ研磨 設備の回転部にはさまれる | 金属ベリ研磨 製品の鋭利なエッジで手を切る |
| 金属ベリ機械加工 切れ・こすれ | 金属ベリ熱間圧延 高温物との接触 | 金属ベリ熱間圧延 はさまれ・巻き込まれ | 金属ベリ熱間圧延 はさまれ・巻き込まれ | 金属ベリエッチング 有害物との接触 | 金属ベリエッチング 切れ・こすれ | 金属ベリ研磨 はさまれ・巻き込まれ | 金属ベリ研磨 切れ・こすれ |
| 鋭利な金属材料 | 高温物との接触 | 可動物 | 回転物 | 劇薬品 | 鋭利な金属材料 | 回転物 | 鋭利な金属材料 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) |
| 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) |
| 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順)、安全管理(保護柵設置) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具装着の徹底、作業手順の徹底) |

| 想定リスク-56 | 想定リスク-57 | 想定リスク-58 | 想定リスク-59 | 想定リスク-60 | 想定リスク-61 | 想定リスク-62 | 想定リスク-63 |
|----------------------------|---------------------------|----------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------|-------------------|
| 金属ベリ検査 酸が飛散し目に入り目をやけどする | 金属ベリ検査 製品の鋭利なエッジで手を切る | 金属ベリ梱包、出荷 フォークリフトとトラックの間に挟まれる | 金属ベリ梱包、出荷 製品の鋭利なエッジで手を切る | 設備設置、搬送 フォークリフトとトラックの間に挟まれる | 装置部材メンテ 通電部に触れ感電する | 高所作業 高所より落下する | 清掃 床の凹凸につまづき転倒 |
| 金属ベリ検査 有害物との接触 | 金属ベリ検査 切れ・こすれ | 金属ベリ梱包、出荷 はさまれ・巻き込まれ | 金属ベリ梱包、出荷 切れ・こすれ | 設備設置、搬送 はさまれ・巻き込まれ | 装置部材メンテ 感電 | 高所作業 飛来・落下 | 清掃 転倒 |
| 劇薬品 | 鋭利な金属材料 | 可動物 | 鋭利な金属材料 | 可動物 | 通電部 | 高所 | 床の凹凸 |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| - | - | - | - | - | - | - | - |
| ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(保護具未着用、確認不足) | ルール順守しない | ルール順守しない(通電状態で作業) | ルール順守しない(安全帯なしで作業) | 不注意 |
| 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(稼働設備に接触) | 安全教育(メンテナンス時稼働停止) | 安全教育(適切な保護具未着用) | 安全教育(注意喚起不足) |
| 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(必要な保護具着装の徹底、作業手順の徹底) | 安全教育(稼働設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(稼働状態で設備に接触しない、作業手順) | 安全教育(保護具着用、作業手順) | 安全教育(注意喚起) |

■別表12-2
ベリリウム 労働災害事例

| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--------|-----------------------|---|------------------------------|--|--|--|
| 発生年月日 | | 2005年11月17日 | 2007年11月12日 | 2008年7月8日 | 2008年8月21日 | 2009年8月26日 |
| 発災工程分類 | | 鋳造 | その他(研究開発) | 展伸材表面処理 | 加工品機械加工 | 加工品梱包出荷 |
| 事故発生概要 | | 切断機の切粉を掃除した後、作業スペースへ戻る際に隣接する切断機のコロコンとコロコンの間を通り抜けようとした為、コロコンからはみ出していた鋳魂の角に脚をぶつけ負傷した。 | 歩行時にコーンとプラチェーンに躓き転倒 | 酸洗工程において本来の作業位置外で板厚計の挿入作業中、誤って通板中の材料とロール間に左手が巻き込まれた。 | ブレードソーで加工するワーク(13kg)を両手で持ちブレードソーに取り付ける際に作業台に躓き体勢を崩しワークとブレードソー本体に指を挟んだ。 | 約25kgの製品を梱包しようと製品を持ち木箱に入れようとし腰痛になった。20kg程度の梱包作業は多いときに1~2回/週、通常は1~2回/月。 |
| 1 | 発災工程 | 鋳造 | その他(研究開発) | 展伸材表面処理 | 加工品機械加工 | 加工品梱包出荷 |
| 2 | 労働災害分類 | 切れ・こすれ | 転倒 | はさまれ・巻込まれ | はさまれ・巻込まれ | 動作の反動、無理な動作 |
| | 有害物質 | 金属材料 | 簡易柵(コーン+プラチェーン) | 金属材料、回転ロール | 金属材料、機械 | 金属材料 |
| 3 | 負傷部位・程度 | 左大腿部挫創・4針縫合 | 左手首ひび | 左尺骨骨折、左前腕Ⅲ°熱傷 | 右手親指先ヒビ | 腰椎 椎間板ヘルニア |
| | 休業日数等 | 不休 | 不休 | 1年 | 不休 | 不休 |
| | 年齢 | 29 | 60 | 26 | 24 | 25 |
| | 経験年数(年) | 11.6 | 15 | 3.41 | 1.666 | 0.5 |
| | 自社(従業員、パート)／派遣／協力会社の別 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 契約社員 | 契約社員 | 契約社員 |
| 4 | 直接要因 | 製品の鋭利な部位との接触 | 障害物へのつまづき | 金属材料と回転ロールの間への挟まれ | 金属材料と機械本体の間への挟まれ | 重量物(25kg)の運搬 |
| | 間接要因 | 通路ではない狭い箇所を通過 安全教育(ルール無視) | 通路ではない狭い箇所を通過 安全教育(ルール無視) | 本来の方法ではないやり方での板厚計挿入(ルール違反) | 作業代につまづき体制を崩した(作業台配置など不安全状態放置) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) |
| 安全対策 | | 安全教育(社内ルールの徹底) | 安全教育(社内ルールの徹底) | 安全教育(社内ルールの徹底) 安全管理(板厚系不具合の放置で本来の方法での挿入ができない状態であった) | 安全管理(つまづきにくい作業台配置) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用) 安全教育(作業動作) |

| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|--|--|---|---|--|---|
| 2009年9月16日 | 2009年10月13日 | 2010年1月26日 | 2011年5月22日 | 2011年10月21日 | 2012年5月16日 |
| 運搬 | 運搬 | 展伸材スリッター | アーク還元 | 展伸材表面処理 | その他(研究開発) |
| ドラム缶(約260kg)の入れ替え作業中、クレーン操作を誤りドラム缶と設備に足をはさまれた。 | クレーンでコイルを運搬し設備にセットしたあとクレーンの吊り具が十分に抜けていない状態で操作し、コイルに引っかかり落下、落下したコイルが横倒しになり足をはさんだ。 | 中間工程のスリッターにおいて、回転ロールに異物を発見し除去しようと手を出し金属材料とロール間にはさまれた。 | 柵に立てかけた会った金属塊(棒状:長さ1.3m×重さ15Kg)が倒れてきて、左小指の付け根に当り骨折。 | 表面処理(酸洗ライン)において、回転ロールに異物を発見し除去しようと手を出し金属材料とロール間にはさまれた。 | 管状の金属(19kgと39kg)を多数移動させつつ外観検査を実施中に腰部、臀部に痛みを感じた。 |
| 運搬 はさまれ・巻き込まれ | 運搬 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材スリッター はさまれ・巻き込まれ | アーク還元 飛来・落下 | 展伸材表面処理 はさまれ・巻き込まれ | その他(研究開発) 動作の反動、無理な動作 |
| ドラム缶、設備 | 金属材料(コイル) | 金属材料、回転ロール | 金属材料 | 金属材料、回転ロール | 金属材料 |
| 左拇趾基節骨々折(左足親指骨折) | 左足第一中足骨開放骨折、左足背挫滅創、左手背挫創 | 右小指及び薬指切断、右手圧挫滅症、右中指末節骨骨折、右中指爪剥離 | 左小指基節骨骨折 | 右中指手背挫創、右前腕圧挫創、右手掌挫創、左示指挫創 | 腰部挫傷、右臀部痛 |
| 不休 | 不休 | 21 | 不休 | 不休 | 不休 |
| 28 | 19 | 36 | 39 | 31 | 48 |
| 0.25 | 0.5 | 0.33 | 4.5 | 0.75 | 0.33 |
| 関係会社 | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 関係会社 | 関係会社 |
| クレーン操作のミスによる足の挟まれ | クレーン操作のミスによる足の挟まれ | 金属材料と回転ロールの間への挟まれ | 不安定に立てかけてあった棒状金属塊の転倒 | 金属材料と回転ロールの間への挟まれ | 重量物(19kg、39kg)の運搬 |
| クレーン操作の未熟 | クレーン操作の未熟 | 設備停止して行うべき作業を稼働中に実施(ルール違反) | 危険源(棒状金属塊)の置き場不適(ルール違反) | 設備停止して行うべき作業を稼働中に実施(ルール違反) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) |
| 安全教育(マニュアル) | 安全教育(マニュアル) | 安全教育(社内ルールの徹底) 安全管理(設備:安全策設置によるアクセス制限) | 安全教育(社内ルールの徹底) | 安全教育(社内ルールの徹底) 安全管理(設備:安全策設置によるアクセス制限) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用) 安全教育(作業動作) |

| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|------------------------------|---|---|---|---|---|
| 2013年5月16日 その他(研究開発) | 2013年9月6日 運搬 | 2014年7月17日 展伸材熱処理 | 2015年11月30日 運搬 | 2016年7月5日 運搬 | 2017年12月9日 展伸材表面処理 |
| 金属板を裁断機で切断の際に添えていた手の指先端を切った。 | 表面検査用巻きつけリング(樹脂製)を運搬中に、床の段差につまづき転倒し樹脂製リングにあごを打った。 | 連続熱処理ライン用巻きつけリング(鉄製)を台車を用い設備に装着しようとしたところ腰部が痛くなった。 | トラック荷台上の積荷にフォークが完全には届かなかったため、フォークで手前に引き寄せようとしたところ3段の積荷が崩れた。崩れた積荷(500kg)が荷台上で指示していた運転手の足首上部に落下し骨折した。 | 圧延コイル(1トン)をクレーンで床面埋込型重量計に置こうとした際、コイルが倒れて手で支えようとし支えきれずにコイルが転倒し左手中指と薬指が床面とコイルに挟まれた。 | 酸洗ラインの研磨機でパフを取り換える際に固定具(ロックナット6kg)を装着しようとして落下させた。左手で落下しているナットを受け止めたところ重量を支えられず、下方の設備部材とナットの間に指を挟まれた。さらにナットが落下しナットの角で指を切創した。 |
| その他(研究開発) 切れ・こすれ | 運搬 転倒 | 展伸材熱処理 動作の反動、無理な動作 | 運搬 飛来・落下 | 運搬 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材表面処理 はさまれ・巻き込まれ 切れ・こすれ |
| 裁断機の刃 | 樹脂製リング | 鉄製リング(台車に載っている) | 積荷(金属材料の入った木箱) | 金属材料 | ロックナット |
| 左示指挫創 | 下顎挫創(4針縫合) | 腰痛 | 左足首上開放骨折(2本) | 左手中指 挫滅傷 左手薬指 裂傷 | 左手中指挫創(3針縫合) |
| 21 | 不休 | 不休 | 休業 | 不休 | 不休 |
| 23 | 46 | 46 | 65 | 32 | 38 |
| 0.33 | 2.4 | 3.25 | 18 | 12 | 19 |
| 自社(従業員) | 関係会社 | 自社(従業員) | 協力会社 | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| 裁断機の刃が指先に当たった | 床の段差につまづき転倒 | 重量物(50kg)の台車による運搬 | 積荷(金属材料の入った木箱)の落下 | 重量物(1トンのコイル)の転倒 | 重量物と設備部材との挟まれ、鋭利な角での切創 |
| 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 安全教育(歩行時の不注意) 安全管理(床に凹凸あり) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 安全教育(フォークリフトの扱い) 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 安全教育(クレーン操作) 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) |
| 安全管理(保護カバーつき裁断機に変更、マニュアル) | 安全教育(歩行時の注意喚起) 安全管理(凹凸の低減、解消) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用) 安全教育(作業動作) | 安全教育(フォークリフトの扱い) 安全管理(マニュアル) | 安全教育(クレーン操作) 安全管理(マニュアル) | 安全管理(マニュアル、設備改造で落下しにくい構造に変更、ナットからピンに簡素化、ピン角部の面取り、耐切創手袋) 安全教育(作業方法) |

| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|---|--------------------------------------|--|--|---|---|
| 2018年6月30日 展伸材表面処理 | 2018年7月2日 展伸材圧延 | 2018年11月14日 鋳造 | 2019年2月19日 展伸材スリッター | 2019年7月4日 展伸材スリッター | 2019年11月13日 展伸材表面処理 |
| 居室(休憩所)で硫酸銅回収装置の異音を聞き慌てて部屋から出ようとした際に、扉の前で足がもつれ扉のガラス窓部を支えようとした手で突き破り、破損したガラスで右手前腕部を切創した。 | 圧延ロール(約5kg)交換でロールを挿入する時に腰に痛みを感じた(腰痛) | ドラムクリッパーが齧れてストッパー部とフレーム部が中途半端な状態で隙間が出来ていた。その隙間に手を入れた所、齧れが解消され、ストッパーがフレームに向い移動し中指を挟まれて骨折した。 | ロール清掃時に断続的に寸動電源を入れて、ロールを拭いており、右手環指をロールに巻込まれた。 | スリット作業後、コイル側面を目視チェック作業時に0.4Mのピットに足を踏み外した 落下の際に左前腕部をコイル側面で擦った。 | 表面の目視チェック後、不良部分を切断除去作業時に切断後のコイルが撥ねて顎を切創した。 |
| 展伸材表面処理 切れ・こすれ | 展伸材圧延 動作の反動、無理な動作 | 鋳造 はさまれ・巻き込まれ | 展伸材スリッター はさまれ・巻き込まれ | 展伸材スリッター 切れ・こすれ | 展伸材表面処理 切れ・こすれ |
| 割れたガラス | 圧延ロール | ドラムクリッパー | ピンチロール | コイル端面 深さ0.4Mのピット | 圧延ロール |
| 右前腕部切創(仮)(13針縫合) | 腰痛 | 左手中指開放骨折 | 右手環指末節剥離骨折 右手4指先端部挫傷 | 左前腕挫創 (9針縫合) | 左顎 挫創 (7針縫合) |
| 不 24 6 | 不 42 2 | 不 19 0.6 | 不 19 0.83 | 不 46 2.4 | 不 26 2 |
| 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) | 自社(従業員) |
| バランスを崩しさせようとした手でガラスを破損させ切創 | 重量物(5kg)の無理な体制での取り扱い | 金属製吊具に挟まれる状況を覚えていなかった | 当該作業時使用禁止の寸動スイッチを使用しロールに巻込まれた | 足を踏み外し咄嗟に出た腕をコイル端面で擦った | コイルで切った |
| 安全管理(強化ガラス不使用) 安全教育(異常時の対応) | 安全管理(マニュアル)(作業手順が不明確) | 作業教育内容を守れなかった・覚えていなかった。 | 柵内のスイッチをONにしながらロールの清掃作業が出来る職場環境であった | 作業場に足を踏み外す事を想定できる深さ0.4Mのピットがある職場環境であった | コイル切断時に作業条件次第ではコイルが撥ねあがる事象を把握していなかった。 コイルがたわんだ場合の切断方法について手順が決められていなかった。 |
| 安全管理(強化ガラス適用) 安全教育(異常時の対応) | 安全管理(マニュアル)(保護具着用) 安全教育(作業動作) | このようなケースは手を手で触れず、棒などで齧りを是正するOJTがあった。 | 柵内スイッチの廃止 当該作業のRAの再評価 操業を止め、危険作業について議論する場を設ける(8時間/月) | 柵外からコイル側面の目視チェックを実施する ピットをカバーで覆い転落しないようにした。 | コイル切断箇所を変更し設備にて撥ね防止を実施 フェイスカバーを当該作業時に装着 厳守とする 本作業を手順書に盛り込む RAの見直し |